

第2学年

教養系教育・基礎科学教育科目

社 会 学	91
情報リテラシーⅡ	92
英 語 Ⅱ	93
日 本 語 学 Ⅱ	94
物 理 学	96
化 学	97
生 物 学	99
基礎歯学概論Ⅱ	100
歯科医療人間学Ⅱ	101

教養系教育・基礎科学教育科目

口 腔 解 剖 学	103
口腔解剖学実習	104
解 剖 学	105
解剖学実習	107
口 腔 組 織 学	108
口腔組織学実習	110
口 腔 生 理 学 Ⅰ	112
口腔生理学実習	114
口 腔 生 化 学 Ⅰ	115
口腔感染免疫学Ⅰ	116
歯 科 薬 理 学 Ⅰ	118
生体材料・歯科材料学Ⅰ	119
公 衆 衛 生 学	120

社会学（前期・1単位）

D①②A-a1-2102(D2102)

科目責任者：高橋 嘉代（非常勤）

科目担当者：①高橋 嘉代（非常勤）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

この授業においては、現代社会で発生する社会現象に対する客観的な分析視角を身につけることを目的とする。社会学的な視角と社会学の基礎理論を学ぶことを目標として、社会学の領域において特に議論が深められてきた分野を多角的に取り上げ、本学ディプロマポリシー1の「倫理とコミュニケーション」の実現をめざす。更に、今とこれからの医療・福祉について重要な論点を提示するトピックに関する議論について学び、本講義における学習を通して、本学ディプロマポリシー6「奥羽プロフェッショナルリズム」の「超高齢社会の問題と課題を分析し、ニーズを抽出して解決策を立案できる」社会学的な思考力・分析力の獲得をめざす。

2. 一般目標

現代社会における様々な課題への関心と分析力を涵養するために、社会学の基礎知識を学び、現代社会の基本的構造、様々な集団・組織の構成原理、人々のつながりに関する今日的な課題について分析・考察できるようになる。

3. 到達目標

- 1) 社会学の基礎概念を学び、理解する。
- 2) 社会学の成立過程について学ぶことを通して、近代社会の形成過程についての認識を深める。
- 3) 医療者および生活者として、社会学的な分析力及び考察力を身につける。

4. 履修の進め方

授業は講義形式で行う。毎回の授業の際に簡単な課題（所要時間10分程度）を課す。

5. 準備学修

講義科目は社会学だが、法学、心理学、文化人類学等の他の社会科学領域との関連は深い。また、授業の内容に関連した各種政府統計（人口動態調査など）についても紹介する予定である。事前の予習はとくに必要はないが、授業中に紹介した事項について学修後に再度確認されたい。

授業内容として紹介した各種統計のソースを確認しておくこと（20分）。

6. 評価方法

記述式の定期試験による（100%）。試験時は授業で配布した資料に限り持ち込み可。100点満点中65点以上を合格とする。

7. 教本

なし。教員作成の資料を配布する。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	近代社会の形成と社会学の誕生	近代社会と社会学の形成過程を学ぶ。		①
2	4／17	社会の作りをどう見るか	社会学の基礎理論を学ぶ。		ク
3	4／24	自我と役割	自我論・役割論について学ぶ。		ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	5／8	相互行為と社会	相互行為論について学ぶ。		①
5	5／15	家族の構造と機能	家族類型と家族の機能について学ぶ。		ク
6	5／22	地域社会とその変動	地域社会の構造と変動について学ぶ。		ク
7	5／29	人口と社会	人口とその構成が社会に及ぼす影響を学ぶ。		ク
8	6／5	集団と組織	社会集団と組織についての理論を学ぶ。		ク
9	6／12	教育と労働	社会における教育と労働の機能を学ぶ。		ク
10	6／19	社会移動と社会階層	社会移動と社会階層について学ぶ。		ク
11	6／26	社会的役割としての性別	ジェンダー（社会的役割としての性）について学ぶ		ク
12	7／3	社会的行為としてみた医療	医療を社会的行為の一つとして把握する。		ク
13	7／10	社会的格差	社会的格差発生理論と近年の動向を学ぶ。		ク
14	7／17	社会問題と逸脱	社会問題と逸脱についての理論を学ぶ。		ク
15	7／24	グローバル化とリスク社会	グローバル化の展開と影響を学ぶ。		ク

情報リテラシーⅡ（通年・1単位）

D①②A-b1-2105(D2105)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②阿部 匡聡（化学）、
③荒木 啓吾（組織）、④大木 達也（材料）、
⑤大須賀謙二（生理）、⑥前田 豊信（生化）、
⑦茂呂祐利子（放射）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

コンピュータの操作を習熟し、学習にも応用することは必須である。そこで、学生個人がコンピュータを用いて、歯学基礎系科目の問題作成を行う。次に、他の学生が作成した問題のブラッシュアップを行う。最後に教員が選択したブラッシュアップ問題について解説を行い、フィードバックするとともに形成的評価を行う。各科目の内容について講義3回を1つのセッションとして演習を中心とした学習を行う。

2. 一般目標

コンピュータを駆使して問題作成、ブラッシュアップを行い、さらに教員からの問題解説を受講することで歯学基礎科目の「知識」をより深く理解する。

3. 到達目標

- 1) 各科目の課題に対して的確な問題を作成する。
- 2) 問題を的確に説明する。
- 3) 他学生が作成した問題に対して的確な意見を述べる。

4. 履修の進め方

コンピュータを用いて、出された課題について学生個人で問題を作成し、その問題に対するブラッシュアップを行う。学生により選択された問題ファイルはポータルサイトの「授業資料」にアップロードする。各セッション最終回で学生により選択されたブラッシュアップ問題に対して教員から解説を行うとともに、教員による更なるブラッシュアップを行った問題により試験を行う。

5. 準備学修

問題作成およびブラッシュアップはいずれも講義時間内に行う。各回の授業内容項目について、事前学習として教本の該当部分を読むこと（15分）。選択されたブラッシュアップ問題はポータルサイトの「課題管理」にアップロードするので、事後学習としてすべての課題について確認すること（30分）。

6. 評価方法

3コマ毎に1回20点のテストを各期でそれぞれ5回行い、合計が「可（65点）」以上を合格とする。各期それぞれ追・再試験を行う。再試験は上限65点、追試験は上限80点とする。CBT-Medicalで正答を開示するので、講義時間内に各自でフィードバックを行う。

7. 教本

なし

8. 参考書

岩田幸一 他編「基礎歯科生理学」第7版 医歯薬出版 2020

和泉博之 他編「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版 学建書院 2021

磯川桂太郎 他著「カラーアトラス 口腔組織発生学」第4版 わかば出版 2016

明坂年隆 他著「カラーアトラス 口腔組織発生学」第3版 わかば出版 2009

伊與田正彦 他著「基礎から学ぶ有機化学」朝倉書店 2013

安孫子宣光 他著「スタンダード生化学・口腔生化学」第

3版 学建書院 2016

中畠 裕 他著「スタンダード歯科理工学」第8版 学建書院 2023

井出吉信 他著「図説新歯牙解剖学」第5版 わかば出版 2021

脇田 稔 他著「口腔解剖学」第2版 医歯薬出版 2018

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	人体の生理	人体の機能に関する問題作成	A-3-1, 2, 3／ 必4-ア、 総Ⅱ1ア-ケ、 6-ア-カ	① ② ⑤ ⑦
2	4／19	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
3	4／26	〃	問題解説	〃	〃
4	5／10	人体の微細構造	人体の微細構造に関する問題作成	A-1-4-1、 A-3-1-1～5／ 必4-ア、 総Ⅱ-1-ア～ ウ、ク	① ② ③ ⑦
5	5／17	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
6	5／24	〃	問題解説	〃	〃
7	5／31	生体分子	生体分子の構造と性質に関する問題作成	A-1-1、 A-1-2、 A-1-3、 A-1-5／ 必4-ア、 必12-イ	① ② ⑦
8	6／7	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
9	6／14	〃	問題解説	〃	〃
10	6／21	歯の形態	歯の形態に関する問題作成	A-3-4／ 必4-ア、 総Ⅱ-5-ア	〃
11	6／28	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
12	7／5	〃	問題解説	〃	〃
13	7／12	人体の機能	人体を構成する物質に関する問題作成	A-1-2、 A-1-5／ 必4-ア	① ② ⑥ ⑦
14	7／19	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
15	7／26	〃	問題解説	〃	〃
16	9／6	口腔の生理	口腔の生理に関する問題作成	A-3-1, 2, 3／ 必4-ア、 総Ⅱ1ア-ケ、 6-ア-カ	① ⑤ ⑦
17	9／13	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
18	9／20	〃	問題解説	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19	9／27	口腔の微細構造	口腔の微細構造に関する問題作成	A-3-3, 4／ 総Ⅱ-4-オ, 5-イ, 8-イ	① ③ ⑦
20	10／4	口腔の微細構造	作成した問題のブラッシュアップ	A-3-3, 4／ 総Ⅱ-4-オ, 5-イ, 8-イ	〃
21	10／11	〃	問題解説	〃	〃
22	10／18	頭頸部の構造	頭頸部の構造に関する問題作成	A-3-1, 2／ 必4-ア, 総Ⅱ-4-ア～キ	① ⑥ ⑦
23	10／25	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
24	11／1	〃	問題解説	〃	〃
25	11／8	人体の機能	代謝に関する問題作成	A-1-2, A-1-3／ 必4-ア	〃
26	11／15	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
27	11／22	〃	問題解説	〃	〃
28	11／29	歯科材料の諸性質	歯科材料の諸性質に関する問題作成	B-1, 2, 3／ 総Ⅷ-1～7	① ④ ⑥ ⑦
29	12／6	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
30	12／13	〃	問題解説	〃	〃

英語Ⅱ（通年・1単位）

D①②A-b1-2108(D2108)

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義の目的は、異なる文化や価値観の多様性を理解できる歯科医師となるために、歯科医療分野における英語の専門用語や頻出語彙表現、文法、そして読解力の基礎を学び、英語で専門知識を吸収できるスキルを習得することである。

2. 一般目標

英語の理解スピードと精度、そして発信力を向上させるために不可欠な基礎的な語彙と文法を復習すると同時に、歯科医療分野の英語表現および自分の意見を述べる時に役立つ表現を数多く覚える。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療英語の基本的な語彙と表現、接頭辞、接尾辞を覚える。
- 2) 基礎文法を復習し、表現方法の細かなニュアンスを理解できるようになる。
- 3) 歯科医療分野の英文を「訳せる」だけで満足せず、英語で知識を「吸収できる」ようになる。

4. 履修の進め方

まず、テキストに基づきながら歯科医療分野の専門用語や頻出語彙表現、接頭辞、接尾辞を覚えると同時に、読解力の基礎を学ぶ。次に、医療機関の英語ウェブサイトや記事・レポートを読むことにより実践的な読解力を習得する。

5. 準備学修

<予習>

- ①各 Unit の語彙や英文の意味を確認（45分）
- ②理解できない部分を把握し、講義で確認すべきリストを作成（10分）

<復習>

- ①講義で学んだ語彙や英文の意味を再確認（20分）
- ②講義で学んだ英文を再度熟読（40分）

<その他>

日常的に、映画や雑誌・新聞など、できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

筆記試験（100％）により評価し、100点満点中65点以上を合格とする。

なお、筆記試験は①前期定期試験、②後期定期試験、③Review Test（全6回）の合計を平均した点数で評価される。フィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7. 教本

影山幾男編著『歯科学生のための医学英語 第2版』学建書院

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	1. Dental Terminology	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	①
2	4／19	2. Toothache	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
3	4／26		Review (1-2)	C-7-1／ 必12-ウ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	5／10		Review Test (1-2)	C-7-1／ 必12-ウ	①
5	5／17	3. Severe Dental Anxiety	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
6	5／24	4. Oral Hygiene	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
7	5／31		Review (3-4)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
8	6／7		Review Test (3-4)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
9	6／14	5. Periodontal Disease	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
10	6／21	6. Dental Implants	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
11	6／28		Review (5-6)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
12	7／5		Review Test (5-6)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
13	7／12	7. Cleft Lip	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
14	7／19		Review (7)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
15	7／26		Review (1-7)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
16	9／6	8. Leukoplakia	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
17	9／13	9. Herpes Simplex	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
18	9／20		Review (8-9)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
19	9／27		Review Test (8-9)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
20	10／4	10. The Temporomandibular Joint	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
21	10／11	11. Sialolithiasis	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
22	10／18		Review (10-11)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
23	10／25		Review Test (10-11)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
24	11／1	12. Inferior Alveolar Nerve Block	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
25	11／8	13. Trigeminal Neuralgia	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
26	11／15		Review (12-13)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
27	11／22		Review Test (12-13)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
28	11／29	14. Paranasal Sinusitis	Reading	C-7-1／ 必12-ウ	〃
29	12／6		Review (14)	C-7-1／ 必12-ウ	〃
30	12／13		Review (8-14)	C-7-1／ 必12-ウ	〃

日本語学Ⅱ（前期・1単位）

D②A-a1-2112(D2112)

科目責任者：本多 真史（日本語・講師）

科目担当者：①本多 真史（日本語）

1. 科目の概要

歯科医師免許という「高度な資格」を取得するためには、国家試験への合格が必要不可欠とされている。歯科医師国家試験問題を解く際には、問題を正確に読み、内容をきちんと理解し、自らの考えを整理し、正しく答えられる力が必要になる。

本講義では、歯科医師国家試験問題を解く際に必要とされる「読解力」を培うことを目指す。1年時に習得した内容をもとに、より実践的な読解方法を身につける演習を行う。

2. 一般目標

問題を解く際に必要な「筋道を立てる」という基本姿勢、論理的な思考、記号読解などの技能を身につける。また、「問題文を読み、理解し、思考して問題を解く」という一連の行為が円滑にいくような能力を体得させる。加えて、国家試験で要求される「問題を時間内に正確に解く」力をも向上させる。

3. 到達目標

- 1) 重要語句等の、問題を解くために必要な基礎的な知識を身につける。
- 2) 論理構造を理解しつつ、問題を正確に読むことができる。
- 3) 問われている内容をきちんと理解することができる。
- 4) 自らの考えを整理し、解答への筋道を立てることができる。
- 5) 客観的に判断し、問題を解決することができる。

4. 履修の進め方

- 1) 講義資料をもとに、講義および演習形式で読解力の育成を行う。
- 2) 各自ノートを作り、板書を適宜書き込むことを基本とする。

5. 準備学修

講義受講前にシラバスで内容を確認し、それに関する事柄を理解しておくことが望ましい（所要時間10分前後）。また講義受講後は、その内容を復習（所要時間30分前後）し、日頃から自然に実践できるように心がける。

6. 評価方法

記述式試験（70%）、ワークシート等（13回）の提出状況及びその内容（30%）により評価し、65点以上を合格とする。試験問題は、多肢選択方式と記述式が含まれる。ワークシート等については、点検して個人に返却する。フィードバックは、講義内で適宜行う。

7. 教本

指定しない。プリントを配布し、それに沿って進める。

8. 参考書

『AI vs 教科書が読めない子どもたち』、『日本語練習帳』、『「ロンリ」の授業』、『「考える技術」と「地頭力」がいつきに身につく東大思考』など

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	オリエンテーション	練習問題を通して、「なんとなく解く」ことから脱却しよう	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01・02, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
2	4／17	読解力向上演習(1)	単語に敏感になろう	〃	〃
3	4／24	読解力向上演習(2)	文の構造をしっかりとらえられるようになろう	〃	〃
4	5／8	読解力向上演習(3)	段落と段落の「つながり方」を意識してみよう	〃	〃
5	5／15	読解力向上演習(4)	「印つけ」読解法を確実に身につけよう	〃	〃
6	5／22	読解力向上演習(5)	文章を要約してみよう 【要約実践演習①】	〃	〃
7	5／29	読解力向上演習(6)	文章を要約してみよう 【要約実践演習②】	〃	〃
8	6／5	読解力向上演習(7)	文章を縮約してみよう 【縮約実践演習①】	〃	〃
9	6／12	読解力向上演習(8)	文章を縮約してみよう 【縮約実践演習②】	〃	〃
10	6／19	読解力向上演習(9)	きちんとした解答を作成しよう 【記述式問題実践演習①】	〃	〃
11	6／26	読解力向上演習(10)	きちんとした解答を作成しよう 【記述式問題実践演習②】	〃	〃
12	7／3	読解力向上演習(11)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう 【マーク式問題実践演習①】	〃	〃
13	7／10	読解力向上演習(12)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう 【マーク式問題実践演習②】	〃	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
14	7／17	読解力向上演習(13)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう 【マーク式問題実践演習③】	PR-04, LL-01, LL-03～05, RE-01・02, RE-05, PS-12, CM-02, C-2-1, C-2-3～C-2-6	①
15	7／24	形成的評価	形成的評価試験を行う	関連範囲	〃

物理学（前期・2単位）

D③A-a2-2302(D2302)

科目責任者：菊地 尚志（物理・教授）

科目担当者：①菊地 尚志（物理）

1. 科目の概要

物理学は自然界の最も基本的な現象について記述する学問です。それゆえ歯科医学でも物理学の知識を基にそれを応用している分野が多いです。1年生の物理学の教養科目「基礎物理学」を基に、歯科医学で物理学が応用されていることがらについて歯科の専門的な知識と関係づけながら授業を進めます。基礎物理学で学んだことを復習しながら、具体的には歯科材料学と歯科放射線学への応用事項について発展させます。

歯科材料学では物質の弾性の大きさについての理解が大切になります。国家試験でも歪み・応力曲線に関する問題が多く出されています。基礎物理学で学んだ原子の構造をもとに、クーロン力についての電磁気学を新たに学んで物質の弾性について理解を深めます。

歯科ではレントゲン写真は言うに及ばず、最近はCTやPETなどの断層写真による診断も使われています。これらの歯科放射線学の技術を安全にまた正しく使う上でやはり原子と原子核の構造や電子と電磁波について思い出すことが必要になります。陽子、中性子、電子、さらには陽電子などの物質の基本的な構成粒子について理解を深め、歯科への応用を知るようにします。

2. 一般目標

物理学の基礎的な内容の歯科医学への応用を理解する。

3. 到達目標

- 1) クーロンの法則で表される原子核と電子の静電気力の効果を理解する。
- 2) 電磁波の発生と物質との相互作用を説明する。
- 3) 物質の弾性を分子・原子間力で説明する。
- 4) 陽子、中性子、電子という基本粒子の存在を説明し、放射線との相互作用を理解する。

4. 履修の進め方

板書を中心に授業をします。ノートをしっかり取る習慣をつけましょう。

5. 準備学修

教科書の授業内容のところをよく読んでくる。(30分)

講義で行った内容の復習を行う。(30分)

6. 評価方法

記述と計算を合わせた試験問題とする。定期試験で65点以上を合格とする。不合格者には再試験を行う。必要に応じて再々試験を行う。

7. 教本

シップマン自然科学入門 新物理学（学術図書出版）

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	ガイダンス	科目の内容を歯科との関係で説明する。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	①
2	4／9		科目の内容を歯科との関係で説明する。	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	4／16	弾性	電荷の間の力	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	①
4	4／16		クーロンの法則	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
5	4／23		バネ定数と弾性率	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
6	4／23		原子の構造と弾性率	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
7	5／7		応力歪み曲線1	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
8	5／7		弾性エネルギー	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
9	5／14		応力歪み曲線2	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
10	5／14		固体の応力	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
11	5／21		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
12	5／21	熱力学	熱量	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
13	5／28		熱伝導	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
14	5／28		熱膨張	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
15	6／4		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
16	6／4	放射能と放射線	放射性核種	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
17	6／11		放射能の種類と原因	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
18	6／11		放射能の強さと半減期	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	①
19	6／18		人工放射能の社会影響, 医学応用	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
20	6／18	原子の構造	原子模型	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
21	6／25		電子配置と周期表	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
22	6／25		電磁波と光子	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
23	7／2		X線管	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
24	7／2		光電効果とコンプトン散乱	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
25	7／9		放射線被曝	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
26	7／9		放射線被曝	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
27	7／16		MRI と PET	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
28	7／16		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
29	7／23		問題演習	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃
30	7／23		まとめ	A-1-1, B-1-1, D-2-5/ 必12-イ	〃

化学（前期・2単位）

D③A-a2-2305(D2305)

科目責任者：阿部 匡聡（化学・講師）

科目担当者：①阿部 匡聡（化学）

1. 科目の概要

生体内で働く物質や、私たちの身近にある物質（燃料、塗料、プラスチック製品、衣類、食品、医薬品など）には、多くの有機化合物が存在している。さらに、歯科医学で用いられる、抗炎症薬・鎮痛薬・抗菌薬・麻酔薬などの薬物の大部分は有機化合物であり、印象剤や歯冠用硬質レジンなどの歯科材料にも有機高分子化合物が利用されている。代謝過程での種々の生体反応も、基本的な有機化合物の反応と根本的な機構は同じであり、有機化学の知識・概念は、生命現象の分子機構の理解、歯科医学関連薬物・材料の構造・性質の理解に不可欠である。本科目では、基本的な有機化合物の構造・性質・合成・反応について解説する。本科目の履修を通じ、生命現象や、物質の変化を、分子機構的に探究する志向性を抱いてほしい。

2. 一般目標

学修者は、ディプロマポリシー③病態解析と治療概念のため、基本的な有機化合物の構造・性質・反応についての知識・概念を習得する。

3. 到達目標

- 1) 学修者は、官能基の種類により化合物を分類し、各化合物の性質・反応を説明できる。
- 2) 学修者は、異性体について説明し、構造式で示すことができる。
- 3) 学修者は、誘起効果と共鳴効果について説明できる。
- 4) 学修者は、置換反応、付加反応、脱離反応、転位反応を説明し、反応式を記述できる。
- 5) 学修者は、反応の進行過程における求核剤と求電子剤の働きを説明できる。
- 6) 学修者は、芳香族化合物の性質・反応について、脂肪族化合物との違いを示し、説明できる。

4. 履修の進め方

教科書の内容編成に沿い、主に板書により講義する。ミニマムリクワイアメントを口頭試問で確認しながら進める。レポートにより、形成的評価を行う。適宜、プリントを用いた問題演習を導入する。

5. 準備学修

1 年次で履修する基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は、歯科基礎医学、歯科基礎病態治療学区分に関連し、特に、口腔生化学Ⅰ、Ⅱ、歯科薬理学Ⅰ、Ⅱ、生体材料・歯科材料学Ⅰ、Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（10分）：教科書の当該箇所を読んでおく。

事後学習（30分）：教科書やノートを読み返し、学習内容の理解を深め、知識・概念を覚えるよう努める。内容を理解し覚える上で、構造式や反応式を書いてみるのが特に有効である。

6. 評価方法

中間試験（6月中旬）と定期試験を、いずれも多肢選択方式問題（40%）、記述式問題（60%）で実施する。中間試験（45%）と定期試験（55%）による評価を科目成績とし、65点以上で合格とする。65点未満の者については、再試験で65点以上を獲得した場合、科目成績を65点とする。

7. 教本

伊奥田正彦 他著「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店 2013年

8. 参考書

中川徹夫著「化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本－」 化学同人 2010年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	原子の構造と電子配置	原子の構造；電子配置；価電子	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	①
2	4／10	共有結合と分子の形成	共有結合；混成軌道	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
3	4／17	有機分子の形と構造異性体	構造式；官能基；構造異性体	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
4	4／17	立体異性体	不斉炭素と光学異性体；アミノ酸・糖の構造；cis-trans 異性体	A-1-1, A-1-2／必4-ア, 必12-イ	ク
5	4／24	分子の中の電子の偏りと非局在化1	結合の分極；結合の開裂と電子の流れ	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
6	4／24	分子の中の電子の偏りと非局在化2	形式電荷；誘起効果と共鳴効果；共鳴安定化と芳香族性	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
7	5／8	分子間力	ファンデルワールス力；双極子-双極子相互作用；水素結合	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
8	5／8	アルカン	アルカンの構造・性質・反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
9	5／15	アルケンとアルキン1	アルケンとアルキンの構造・性質；アルケンの合成	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
10	5／15	アルケンとアルキン2	アルケンの反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
11	5／22	アルケンとアルキン3	アルキンの合成・反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
12	5／22	ハロゲン化アルキル1	ハロゲン化アルキルの構造・性質・合成	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
13	5／29	ハロゲン化アルキル2	ハロゲン化アルキルの求核置換反応・脱離反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
14	5／29	アルコールとエーテル1	アルコールの構造・性質・合成	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
15	6／5	アルコールとエーテル2	アルコールの反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
16	6／5	アルコールとエーテル3	エーテルの構造・性質・合成・反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
17	6／12	ベンゼンと芳香族炭化水素1	ベンゼンの構造；アルケンとベンゼンの反応性の違い	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	①
18	6／12	ベンゼンと芳香族炭化水素2	芳香族化合物とヒュッケル則；芳香族求電子置換反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
19	6／19	ベンゼンと芳香族炭化水素3	求電子置換反応における配向効果と活性化効果	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
20	6／19	置換ベンゼン類の合成と反応1	フェノールの性質・合成；フェノール類, ハロゲン化アリールの反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ, 総Ⅶ-8-ウ	ク
21	6／26	置換ベンゼン類の合成と反応2	アニリンの反応；ジアゾニウム塩の合成と反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
22	6／26	カルボニル化合物1	カルボニル化合物の構造・性質・合成	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
23	7／3	カルボニル化合物2	カルボニル化合物の求核付加反応, 酸化還元	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
24	7／3	カルボニル化合物3	エノールおよびエノラートイオンの反応；アルドール縮合	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
25	7／10	カルボン酸	カルボン酸の構造・性質・合成；弱酸の解離定数；酸塩基平衡	A-1-1, A-1-2／必4-ア, 必12-イ	ク
26	7／10	カルボン酸誘導体1	エステル, カルボン酸塩化物の合成・反応	A-1-1, A-1-2／必4-ア, 必12-イ	ク
27	7／17	カルボン酸誘導体2	カルボン酸無水物, アミド, ニトリルの合成・反応	A-1-1, A-1-2／必4-ア, 必12-イ	ク
28	7／17	アミン1	アミンの構造・性質・合成；局所麻酔薬とアミン	A-1-1／必4-ア, 必11-カ, 必12-イ	ク
29	7／24	アミン2	アミンの反応	A-1-1／必4-ア, 必12-イ	ク
30	7／24	高分子	高分子化合物の分類；歯科材料と高分子；重合反応	A-1-1, B-1-2／総Ⅷ-1	ク

生物学（前期・2単位）

D③A-a2-2308(D2308)

科目責任者：前田 豊信（生化・教授）

科目担当者：①前田 豊信（生化）

1. 科目の概要

本科目では、歯科医師として必要な生命現象を理解するために、必要な分子生物学の知識を中心に講義を行う。具体的には、細胞生物学と細胞間情報伝達について講義する。各臓器の機能について、分子生物学的観点から講義する。さらに遺伝子工学の現状を解説し、生命倫理について考察する。

2. 一般目標

歯科口腔疾患の病態を解析し、治療の要素を把握するために必要な、基礎系科目の知識を理解・習得するために、必要な生物学の知識を身につける。

3. 到達目標

- 1) 細胞の構造と機能について説明できる。
- 2) 生体を構成する基本分子とその代謝について説明できる。
- 3) 細胞間情報伝達について説明できる。
- 4) 中心命題とその制御について説明できる。
- 5) 血液の成分と機能について説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと web 資料、配布資料を使用して履修する。

5. 準備学修

事前に web 資料、配布資料を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておくこと（10分）。

6. 評価方法

客観的な問題で行われる定期試験（100点満点）で評価し、65点以上で合格（単位認定）とする。65点未満の者は、願出により再試験を受験することができる。再試験で65点以上であった場合には、65点として評価する。なお、追試験に関しては100点で評価する。

7. 教本

なし。

8. 参考書

基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版 和田 勝著（羊土社）

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	細胞の構造と機能①	小器官の機能	A-1-4／必4-ア	①
2	〃	細胞の構造と機能②	細胞骨格	A-1-4／必4-ア	〃
3	4／15	細胞の構造と機能③	形質膜と膜輸送	A-1-4／必4-ア	〃
4	〃	人体を構成する成分①	糖 甘味料	A-1-2／必4-ア	〃
5	4／22	人体を構成する成分②	アミノ酸	A-1-2／必4-ア， 総Ⅱ-1-コ	〃
6	〃	人体を構成する成分③	タンパク質	A-1-2／必4-ア	〃
7	5／13	人体を構成する成分④	脂質	A-1-2／必4-ア， 総Ⅱ-1-コ	〃
8	〃	栄養素の消化と吸収①	栄養素の消化	A-1-2／必4-ア， 総Ⅱ-1-オ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9	5／20	栄養素の消化と吸収②	栄養素の吸収と輸送	A-1-2／必4-ア， 総Ⅱ-1-オ	①
10	〃	栄養素の代謝①	エネルギー産生1	A-1-2／必4-ア， 総Ⅱ-1-コ	〃
11	5／27	栄養素の代謝②	エネルギー産生2	A-1-2／必4-ア， 総Ⅱ-1-コ	〃
12	〃	栄養素の代謝③	排泄1	A-3-1／必4-ア， 総Ⅱ-1-コ	〃
13	6／3	栄養素の代謝④	排泄2	A-3-1／必4-ア， 総Ⅱ-1-コ	〃
14	〃	血液	血液の構成	A-3-1／必4-ア， 必9-エ， 総Ⅱ-1-カ	〃
15	6／10	内臓の機能①	肝臓の機能	A-3-1／必4-ア， 必9-エ	〃
16	〃	内臓の機能②	脾臓の機能	A-3-1／必4-ア， 必9-エ	〃
17	6／17	内臓の機能③	膵臓の機能	A-3-1／必4-ア， 必9-エ	〃
18	〃	生体恒常性	緩衝作用	A-1-4／必4-ア， 必10-エ	〃
19	6／24	細胞間情報伝達④	ホルモン①	A-1-5， A-3-1／ 総Ⅱ-1-ケ	〃
20	〃	細胞間情報伝達④	ホルモン②	A-1-5， A-3-1／ 総Ⅱ-1-ク	〃
21	7／1	細胞間情報伝達④	細胞内シグナル伝達	A-1-5， A-3-1／ 総Ⅱ-1-ク	〃
22	〃	細胞間情報伝達④	成長因子	A-1-5， A-3-1／ 総Ⅱ-1-ク	〃
23	7／8	細胞間情報伝達⑤	エイコサノイド	A-1-5， A-3-1／ 総Ⅱ-1-ク	〃
24	〃	細胞分裂と細胞死	細胞分裂	A-1-3／必4-ア	〃
25	〃	細胞分裂と細胞死	核酸合成	A-1-3／必4-ア	〃
26	〃	細胞分裂と細胞死	細胞分裂と細胞死	A-1-3／必4-ア	〃
27	7／22	中心命題①	転写と転写因子	A-1-3／必4-ア	〃
28	〃	中心命題②	翻訳と翻訳後修飾	A-1-3／必4-ア	〃
29	〃	遺伝	遺伝	A-1-3／必4-ア	〃
30	〃	遺伝子工学	遺伝子工学	A-1-3／必4-ア， 総Ⅵ-3	〃

基礎歯学概論Ⅱ（前期・2単位）

D②A-a2-2206(D2206)

科目責任者：遊佐 淳子（病理・准教授）

科目担当者：①遊佐 淳子（病理）、②廣瀬 公治（衛生）、
③小林美智代（衛生）、④鈴木 礼子（薬理）、
⑤山崎 幹子（病理）、⑥石田 喜紀（材料）、
⑦前田 豊信（生化）、⑧加藤 靖正（生化）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で、専門基礎科目は特に重要となる。その中で、2年時の後期から3年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に、履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

2. 一般目標

ディプロマ・ポリシー（3）の病態を解析するための基礎となる第2学年時の後期から第3学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に、その知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 生体を構成する成分と機能を説明できる。
- 2) 歯と歯周組織の疾患の病因と病態を説明できる。
- 3) 健康の保持・増進の方策を説明できる。
- 4) 社会保障の概要を理解する。
- 5) 地域保健における歯科医師の役割を説明できる。
- 6) 疫学と調査について概念を説明できる。
- 7) 歯科材料、診療用機械について基本的な事項を説明できる。
- 8) 食品衛生と栄養摂取基準を説明できる。
- 9) 医薬品の開発と薬害を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライド、プリント、板書で適宜進める。ノートを取り、プリントに追記する。

5. 準備学習

講義担当者から配布される資料や、図書館の資料を用いる。新聞やTVニュースなどから保健・医療・福祉に関する社会の流れを把握すること（事前学習15分）。加えて、講義受講後に、その内容を復習すること（事後学習30分）。

6. 評価方法

多肢選択方式問題による定期試験（100％）で評価し、65点以上を合格とする。再試験は65点未満の不合格者に実施する。再試験は上限65点、追試験は上限80点とする。定期試験のフィードバックは、答案を開示して適宜行う。

7. 教本

講義担当者から配布される資料を用いる。口腔衛生学概論ではスタンダード衛生・公衆衛生、口腔生化学概論ではスタンダード生化学口腔生化学を持参のこと。

8. 参考書

坪井貴司著「そうだったのか！ヒトの生物学」丸善出版2019年

田村浩一著「図解入門 よくわかる病理学の基本としくみ」秀和システム 2011年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／12	口腔衛生学概論①	公衆衛生学序論 社会変化と健康	C-5-1, 2, 3／ 総1-ア～オ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4／12	口腔衛生学概論②	疾病構造と健康問題 国際保健協力	C-5-1, 2, 3／ 総1-ア～オ	②
3	4／19	口腔衛生学概論③	健康の保持増進 健康増進法 健康日本21（第三次） 歯科口腔保健の推進に関する法律	C-5-1, 2, 3／ 必3-イ、 総1-ア～オ	③
4	4／19	口腔衛生学概論④	統計学の基礎-1	C-6-1, C-6-2／ 必9-ウ、 総1-6-ア	ク
5	4／26	口腔衛生学概論⑤	統計学の基礎-2	C-6-1, C-6-2／ 必9-ウ、 総1-6-ア	ク
6	4／26	口腔衛生学概論⑥	統計学の基礎-3	C-6-1, C-6-2／ 必9-ウ、 総1-6-ア	ク
7	5／10	歯科薬理学概論①	薬物と医薬品1	A-6-2-1／ 必11-コ	④
8	5／10	歯科薬理学概論②	薬物と医薬品2	A-6-1-1／ 必2-イ	ク
9	5／17	口腔衛生学概論⑦	食生活と健康-1	E-5-2／ 総1-8-ア、イ	③
10	5／17	口腔衛生学概論⑧	食生活と健康-2	E-5-2／ 総1-8-ア、イ	ク
11	5／24	口腔病理学概論①	病理組織検査	D-2-6-1／ 総IV-3-ア	①
12	5／24	口腔病理学概論②	齲蝕	D-3-2-1／ 総III-2-ア	ク
13	5／31	口腔病理学概論③	歯周病1	D-3-2-3／ 総III-2-ア	⑤
14	5／31	口腔病理学概論④	歯周病2	D-3-2-3／ 総III-2-ア	ク
15	6／7	生体材料学概論①	歯科修復用材料（1）	B-1, 2, 3／ 総VIII-1～11	⑥
16	6／7	生体材料学概論②	歯科修復用材料（2）	B-1, 2, 3／ 総VIII-1～11	ク
17	6／14	生体材料学概論③	歯科修復用材料（3）	B-1, 2, 3／ 総VIII-1～11	ク
18	6／14	生体材料学概論④	歯科修復用材料（4）	B-1, 2, 3／ 総VIII-1～11	ク
19	6／21	生体材料学概論⑤	歯科修復用材料（5）	B-1, 2, 3／ 総VIII-1～11	ク
20	6／21	生体材料学概論⑥	歯科修復用材料（6）	B-1, 2, 3／ 総VIII-1～11	ク
21	6／28	口腔生化学概論①	アミノ酸基本構造・アミノ酸残基の修飾 アミノ酸代謝	A-1-2／ 必4-ア	⑦
22	6／28	口腔生化学概論②	タンパク質の基本構造・フォールディング、翻訳	A-1-2／ 必4-ア	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
23	7／5	口腔生化学概論③	ビタミンの種類、機能、欠乏症	A-1-2／ 総Ⅶ-8-ウ	⑦
24	7／5	口腔生化学概論④	補酵素とその役割	A-1-2／ 必4-ア	〃
25	7／12	口腔生化学概論⑤	栄養素の相互変換とエネルギー代謝①	A-1-2／ 必4-ア	〃
26	7／12	口腔生化学概論⑥	栄養素の相互変換とエネルギー代謝②	A-1-2-8／ 必4-ア	〃
27	7／19	歯科薬理学概論③	医薬品の開発	A-6-1-2／ 必2-ケ	④
28	7／19	歯科薬理学概論④	薬害	A-6-1-2／ 必2-ケ	〃
29	7／26	口腔生化学概論⑦	酵素反応速度論Ⅰ：ミカエリスメンテンの式	A-1-2／ 必4-ア	⑧
30	7／26	口腔生化学概論⑧	酵素反応速度論Ⅱ：アロステリック酵・酵素反応阻害様式	A-1-2／ 必4-ア	〃

歯科医療人間学Ⅱ（前期・1単位）

D①A-a1-2402(D2402)

科目責任者：中川 敏浩（組織・准教授）

科目担当者：①中川 敏浩（組織）、②南 健太郎（衛生）、
③吉田いくよ（非常勤）、④鈴木 俊子（非常勤）、
⑤本多 真史（日本語）

※この科目は、診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
- 2) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 3) 平易な言葉で順序立てて説明する。
- 4) 医療現場に必要な言葉でコミュニケーションする。

4. 履修の進め方

グループワークおよびペアによる Active Learning を行う。授業形態はプリントを配布し、レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく、必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 準備学習

予 習：シラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける（30分）。

復 習：プリント学習や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

態度教育（パフォーマンス学）の評価方法としてビデオ撮影を実施し、基準点（60点）、言語表現（15点）、非言語表現（15点）、全体印象（10点）の100点満点で評価する。コミュニケーション技能の評価方法として記述式試験を実施し、100点満点で評価する。両者の平均値で65点以上を合格とする。

7. 教本

なし。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	2-A 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	PR／ 必-1-ア-a	① ②
〃	〃	2-B 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	PR／ 必-1-ア-a	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4／16	2－A 医療人とア サーション①	医療コミュニ ケーションの 進行の仕方	CS／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
〃	〃	2－B 聞き手の基本 的な態度①	傾聴力とホス ピタリティ能 力	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
3	4／23	2－A 医療人とア サーション②	医療コミュニ ケーションの 進行の仕方	CS／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
〃	〃	2－B 聞き手の基本 的な態度②	傾聴力とホス ピタリティ能 力	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
4	5／7	2－A 聞き手の基本 的な態度①	傾聴力とホス ピタリティ能 力	CM／ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2－B 医療人とア サーション①	医療コミュニ ケーションの 進行の仕方	CS／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
5	5／14	2－A 聞き手の基本 的な態度②	傾聴力とホス ピタリティ能 力	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
〃	〃	2－B 医療人とア サーション②	医療コミュニ ケーションの 進行の仕方	CS／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
6	5／21	2－A 表現・自分自 身を知るⅡ－ 1①	自分の表現の 仕方基礎	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
〃	〃	2－B 医療面接と傾 聴力①	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
7	5／28	2－A 表現・自分自 身を知るⅡ－ 1②	自分の表現の 仕方基礎	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
〃	〃	2－B 医療面接と傾 聴力②	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
8	6／4	2－A 医療面接と傾 聴力①	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2－B 表現・自分自 身を知るⅡ－ 1①	自分の表現の 仕方基礎	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
9	6／11	2－A 医療面接と傾 聴力②	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
〃	〃	2－B 表現・自分自 身を知るⅡ－ 1②	自分の表現の 仕方基礎	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
10	6／18	2－A 表現・自分自 身を知るⅡ－ 2①	自分の表現の 仕方実践	CM／ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2－B 医療面接の実 践トレーニング ①	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 ＜グルー プ ワーク＞	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	⑤ ②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
11	6／25	2－A 表現・自分自 身を知るⅡ－ 2②	自分の表現の 仕方実践	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
〃	〃	2－B 医療面接の実 践トレーニング ②	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 ＜グルー プ ワーク＞	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
12	7／2	2－A 医療面接の実 践トレーニング ①	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 ＜グルー プ ワーク＞	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	〃
〃	〃	2－B 表現・自分自 身を知るⅡ－ 2①	自分の表現の 仕方実践	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
13	7／9	2－A 医療面接の実 践トレーニング ②	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 ＜グルー プ ワーク＞	E-2-1-1／ 必-8-ウ-C	⑤ ②
〃	〃	2－B 表現・自分自 身を知るⅡ－ 2②	自分の表現の 仕方実践	CM／ 必-8-ウ-C	③ ④ ①
14	7／16	形成的評価	形成的評価試 験を行う。	関連範囲	① ⑤
15	7／23	形成的評価	形成的評価試 験を行う。	関連範囲	〃

口腔解剖学（通年・3単位）

D③B-a3-2503(D2503)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床歯科医学を学修するのに先立ち、歯および口腔領域の正常な形態と構造について講義で学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な歯や口腔周囲の構造についての「知識」を身に付けるために、ヒトの歯および口腔領域の正常な形態と構造について理解する。

3. 到達目標

- 1) 永久歯、乳歯の形態を説明する。
- 2) 歯列・咬合について説明する。
- 3) 口腔領域の筋・神経・脈管について説明する。
- 4) 口腔内臓について説明する。
- 5) 顎関節の構造と機能について説明する。

4. 履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回講義内容を CBT-Medical による小テストで形成的評価を行いながら講義を進めていく。これにより学修するすべての項目についての理解を確実にものとして、項目間の関連について理解できることを目標とする。

5. 準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに（15分）、小テストのために前回講義内容の復習をしておく（30分）。

6. 評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（90％）と講義時間内で行う CBT-Medical による前回講義内容の試験（10％）の平均が「可（65点）」以上を合格とする。再試験は上限65点、追試験は上限80点で採点する。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

7. 教本

井出吉信 編著「図説 新歯牙解剖学－歯牙解剖実習」第5版 わかば出版 2021

8. 参考書

松村譲児ら編 著「イラスト顎顔面解剖学」中外医学社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	口腔解剖学総論1	口腔解剖学とは	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	①
2	4／11	口腔解剖学総論2	歯の種類、歯列、歯式と方向用語	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
3	4／18	永久歯の形態①	切歯の形態	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
4	4／18	永久歯の形態②	切歯のスケッチ、スケッチ方法論	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
5	4／25	永久歯の形態③	犬歯の形態	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
6	4／25	永久歯の形態④	犬歯のスケッチ、歯の彫刻の実際	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
7	5／9	永久歯の形態⑤	上顎小臼歯の形態	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	5／9	永久歯の形態⑥	下顎小臼歯の形態	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	①
9	5／16	永久歯の形態⑦	上顎第一大臼歯の形態	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
10	5／16	永久歯の形態⑧	上顎第二大臼歯の形態	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
11	5／23	永久歯の形態⑨	下顎第一大臼歯の形態	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
12	5／23	永久歯の形態⑩	下顎第二大臼歯の形態	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
13	5／30	慰霊式説明	慰霊式説明、死体解剖保存法	C-1-1)／ 必1-ア	〃
14	5／30	慰霊式	慰霊式	A-3-4／ 必1-ア	〃
15	6／6	永久歯の形態⑪	永久歯のまとめ	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
16	6／6	乳歯の形態①	乳歯総論	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	②
17	6／13	乳歯の形態②	乳歯の形態1	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
18	6／13	乳歯の形態③	乳歯の形態2 歯齢	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
19	6／20	歯の形態異常	歯の形態異常	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
20	6／20	歯列、咬合	歯列、咬合	A-3-3／ 総Ⅱ-5-ア	〃
21	6／27	乳歯の形態④	乳歯のまとめ	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
22	6／27	臨床と口腔解剖	臨床からみた口腔解剖	A-3-3／ 総Ⅱ-5-ア	①
23	7／4	神経学①	神経学総論	A-3-1／ 必5-ア	②
24	7／4	神経学②	中枢神経1・総論	A-3-1／ 必4-ア	〃
25	7／11	神経学③	中枢神経2・大脳	A-3-1／ 必4-ア	〃
26	7／11	口腔の解剖①	口腔内臓総論	A-3-3／ 総Ⅱ-4-ア	①
27	7／18	神経学④	中枢神経3・脳幹、小脳	A-3-1／ 必4-ア	②
28	7／18	口腔の解剖②	口蓋、口峽	A-3-3／ 総Ⅱ-4-オ	①
29	7／25	神経学⑤	中枢神経4・脊髄	A-3-1／ 必4-ア	②
30	7／25	口腔の解剖③	咽頭・唾液腺	A-3-3／ 総Ⅱ-4-オ	①
31	9／2	神経学⑥	末梢神経1・脳神経総論	A-3-1／ 総Ⅱ-4-カ	〃
32	9／9	神経学⑦	末梢神経2・脳神経Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ、Ⅶ	A-3-1／ 総Ⅱ-1-キ	〃
33	9／30	神経学⑧	末梢神経3・脳神経Ⅶ	A-3-1／ 総Ⅱ-4-カ	〃
34	9／30	神経学⑨	末梢神経4・脳神経Ⅶ、Ⅻ	A-3-1／ 総Ⅱ-4-カ	〃
35	10／7	神経学⑩	末梢神経5・脳神経Ⅴ	A-3-1／ 総Ⅱ-4-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
36	10／21	神経学⑪	末梢神経 6・ 脳神経 V	A-3-1／ 総Ⅱ-4-カ	①
37	10／28	神経学⑫	末梢神経 7・ 脳神経Ⅸ, X, XI	A-3-1／ 総Ⅱ-4-カ	〃
38	10／28	神経学⑬	末梢神経 8・ 自律神経	A-3-1／ 総Ⅱ-1-ク	〃
39	11／11	神経学⑭	末梢神経 9・ 脊髄神経	A-3-1／ 総Ⅱ-4-カ	〃
40	11／18	頭頸部の筋①	顔面筋と咀嚼 筋	A-3-2／ 総Ⅱ-4-ウ	〃
41	11／25	頭頸部の筋②	舌筋, 舌骨上 筋, 舌骨下筋	A-3-2／ 総Ⅱ-4-ウ	〃
42	11／25	神経学⑮	末梢神経ま とめ	A-3-1／ 総Ⅱ-4-カ	〃
43	12／ 2	嚥下	嚥下関連の解 剖学	A-3-2／ 総Ⅱ-6-エ	〃
44	12／ 9	筋膜隙	臨床関連の解 剖学	A-3-2／ 総Ⅱ-4-キ	〃
45	12／ 9	顎関節	顎関節の構造 と機能	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	②

口腔解剖学実習（前期・1単位）

D②③B-c1-2504(D2504)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

前半の7回で歯の形態についてスケッチおよび彫刻実習により理解する。後半の8回で骨の形態と構造について骨標本を用いた実習により理解する。

2. 一般目標

歯の形態と全身の骨の構造を理解することにより歯科医師として必要な歯と骨に関連した「知識」を身に付ける。

3. 到達目標

- 1) 歯の形態を2次元的にスケッチする。
- 2) 歯の形態を3次元的に彫刻する。
- 3) 頭蓋骨や全身の骨の形態および構造を説明できる。

4. 履修の進め方

永久歯の3倍大のスケッチと彫刻の実習を行う。骨学実習ではテキストの内容を骨標本で確認する。

5. 準備学修

歯の彫刻実習には歯種に応じた大きさの石膏棒を用意するとともに歯の形態を事前に確認しておく（15分）。

骨学実習では「口腔顎顔面ノート」の該当部分を事前に確認しておく（30分）。

実習後に歯のスケッチ又は「口腔顎顔面ノート」を復習しておく（15分）。

6. 評価方法

各回の提出物の評価（85%）、態度評価（15%：欠席1回につき5%減点）の100点満点の評価で、「可（65点）」以上を合格とする。提出物の評価基準については実習の第1回目で説明する。フィードバックは提出物返却時に適宜行う。

7. 教本

井出吉信 監修「口腔顎顔面解剖ノート」第3版 学建書院

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／11	口腔解剖学実習①	評価基準の説明, Wax 棒彫刻	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	①
2					②
3					
4					
5	4／18	口腔解剖学実習②	切歯のスケッチ, 彫刻	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
6					
7					
8					
9	4／25	口腔解剖学実習③	犬歯のスケッチ, 彫刻	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
10					
11					
12					
13	5／ 9	骨学実習①	骨の貸出と確認	A-3-4／ 総Ⅱ-4-イ	〃
14					
15					
16					
17	5／16	口腔解剖学実習④	小臼歯のスケッチ, 彫刻	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	〃
18					
19					
20					

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
21	5／23	口腔解剖学実習⑤	上顎大臼歯のスケッチ，彫刻	A-3-4／ 総Ⅱ-5-ア	① ②
22					
23					
24					
25	5／30	慰霊式	慰霊式	C-1-1／ 必1-ア	〃
26					
27					
28					
29	6／6	口腔解剖学実習⑥	下顎大臼歯のスケッチ，彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
30					
31					
32					
33	6／13	骨学実習②	頭蓋冠，頭蓋底	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
34					
35					
36					
37	6／20	骨学実習③	蝶形骨，側頭骨，眼窩	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
38					
39					
40					
41	6／27	骨学実習④	上顎骨，口蓋骨，鼻腔	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
42					
43					
44					
45	7／4	骨学実習⑤	下顎骨，舌骨	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
46					
47					
48					
49	7／11	骨学実習⑥	体幹と四肢の骨	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ	〃
50					
51					
52					
53	7／18	骨学実習⑦	頭蓋底の孔・管と翼口蓋窩	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ	〃
54					
55					
56					
57	7／25	骨学実習⑧	骨学実習まとめ	A-3-1, 2／ 総Ⅱ-1-イ， 総Ⅱ-4-イ	〃
58					
59					
60					

解剖学（通年・3単位）

D③B-a3-2501 (D2501)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖），②芹川 雅光（解剖），
③佐藤 功二（非常勤），④阿部 伸一（非常勤），
⑤井出 吉昭（非常勤）

※この科目は，診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医学を学修するのに先立ち，肉眼解剖による人体の正常構造を講義により学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な肉眼解剖学の「知識」を身に付けるために，人体の正常な形態と構造について理解する。

3. 到達目標

- 1) 身体の部位と方向用語を説明する。
- 2) 身体を構成する器官系について説明する。
- 3) 人体の骨，脈管，筋，内臓，神経の形態と構造を説明する。
- 4) 鰓弓および顎顔面の発生を説明する。

4. 履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回の講義内容を形成的評価を行いながら講義を進めていく。また，各項目終了時にも形成的評価を行う。これによりすべての項目についての理解を確実なものとして，項目間の関連について理解できることを目標とする。

5. 準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに（15分），形成的評価のために前回講義内容の復習をしておく（30分）。

6. 評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（90％）と講義時間内で行う CBT-Medical による前回講義内容の試験（10％）の100点満点の評価が「可（65点）」以上を合格とする。再試験は上限65点，追試験は上限80点で採点する。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

7. 教本

脇田稔ら監修「口腔解剖学」第2版 医歯薬出版 2018年

8. 参考書

松村譲児 著「イラスト解剖学」第10版 中外医学社 2021年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	解剖学総論	解剖学とは，方向用語	A-3-1／ 総Ⅱ-4-ア～キ	①
2	4／16	骨学①	骨学総論	A-3-1／ 総Ⅱ-4-イ	〃
3	4／23	骨学②	頭蓋冠・外頭蓋底	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
4	5／7	骨学③	内頭蓋底	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
5	5／14	骨学④	蝶形骨 1	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
6	5／21	骨学⑤	蝶形骨 2	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
7	5／28	骨学⑥	側頭骨	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
8	6／4	骨学⑦	上顎骨	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9	6／11	骨学⑧	下顎骨	A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	①
10	6／18	骨学⑨	体幹の骨	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ	〃
11	6／25	骨学⑩	体肢の骨	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ	〃
12	7／2	骨学⑪	骨学のまとめ	A-3-1, A-3-2／ 総Ⅱ-4-イ	〃
13	7／9	脈管学①	脈管学総論	A-3-1／ 総Ⅱ-1-ウ	②
14	7／16	脈管学②	動脈	A-3-2／ 総Ⅱ-4-エ	〃
15	7／23	脈管学③	静脈, リンパ	A-3-2／ 総Ⅱ-4-エ	〃
16	9／5	内臓学①	筋学 1	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ	①
17	9／5	局所解剖学 1	人体解剖学実 習 1 のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	〃
18	9／12	内臓学②	筋学 2	A-3-1／ 総Ⅱ-1-イ	〃
19	9／12	局所解剖学 2	人体解剖学実 習 2 のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	〃
20	9／19	内臓学③	消化器 1	A-3-1／ 総Ⅱ-1-オ	〃
21	9／19	局所解剖学 3	人体解剖学実 習 3 のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	〃
22	9／26	内臓学④	消化器 2	A-3-1／ 総Ⅱ-1-オ	〃
23	9／26	局所解剖学 4	人体解剖学実 習 4 のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	〃
24	10／3	内臓学⑤	呼吸器	A-3-1／ 総Ⅱ-1-エ	〃
25	10／3	局所解剖学 5	人体解剖学実 習 5 のための 解説	A-3-1／ 総Ⅲ-2-ア, ウ, エ, キ	〃
26	10／10	内臓学⑥	感覚器 1	A-3-1／ 総Ⅱ-1-ク	〃
27	10／10	局所解剖学 6	人体解剖学実 習 6 のための 解説	A-3-1／ 総Ⅲ-2-ア, エ, キ	〃
28	10／17	内臓学⑦	感覚器 2	A-3-1／ 総Ⅱ-1-ク	〃
29	10／17	局所解剖学 7	人体解剖学実 習 7 のための 解説	A-3-1／ 総Ⅲ-2-ア, イ, エ, キ	〃
30	10／24	内臓学⑧	泌尿生殖器	A-3-1／ 総Ⅱ-1-キ	〃
31	10／24	局所解剖学 8	人体解剖学実 習 8 のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	〃
32	10／31	内臓学⑨	内分泌器	A-3-1／ 総Ⅱ-1-ケ	〃
33	10／31	局所解剖学 9	人体解剖学実 習 9 のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
34	11／7	内臓学⑩	内臓学のま とめ	A-3-1／ 総Ⅱ-1-ア～ケ	①
35	11／7	局所解剖学10	人体解剖学実 習10のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	〃
36	11／14	発生①	鰓弓	A-2-4／ 総Ⅱ-8-ア	②
37	11／14	局所解剖学11	人体解剖学実 習11のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	①
38	11／21	発生②	顎顔面の発生	A-2-4／ 総Ⅱ-8-ア	②
39	11／21	局所解剖学12	人体解剖学実 習12のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	①
40	11／28	局所解剖学13	人体解剖学実 習13のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	〃
41	11／28	臨床解剖①	咀嚼嚥下の機 能解剖	A-3-2／ 総Ⅱ-4-キ	④
42	12／5	局所解剖学14	人体解剖学実 習14のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	①
43	12／5	発生③	舌	A-2-4／ 総Ⅱ-8-ア	③
44	12／12	局所解剖学15	人体解剖学実 習15のための 解説	A-3-1／ 必5-ア	①
45	12／12	臨床解剖②	頭頸部の臨床 解剖	A-3-2／ 総Ⅱ-4-キ	⑤

解剖学実習（後期・1単位）

D②③B-c1-2502(D2502)

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）、
③櫻井 裕子（解剖）、④佐藤 功二（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

人体を用いた肉眼解剖学の実習を行う。この実習は「死体解剖保存法」に則って行われる。人体の構造についての知識を深めるだけでなく、医の倫理を考え、死者に対する尊厳を学ぶ場でもある。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な解剖学の「知識」を関連付けて理解するだけでなく、実習期間中に各班がプレゼンテーションを行うことにより「研究志向と解決力」を涵養する。

3. 到達目標

- 1) 身体の部位と方向用語を説明する。
- 2) 身体を構成する器官系について説明する。
- 3) 人体の骨、脈管、筋、内臓、神経の形態と構造を説明する。
- 4) 献体への礼意をもって実習に臨む。

4. 履修の進め方

特に頭頸部を中心とした人体解剖実習を行う。各回の内容手順は事前にプリントをポータルサイトの「授業資料」にアップロードしておくとともに、実習前に講義により手順の解説を行う。また、班ごとに指定された課題について期間中に1回のプレゼンテーションを行う。

5. 準備学修

事前に教科書、プリントで解剖手順を確認しておくとともに（15分）、総括的評価のために前回実習内容の復習をしておく（30分）。実習の第1回目に各班の課題を提示するので発表日までに班ごとにプレゼンテーションの準備を行う。

6. 評価方法

毎回講義前に行う前回内容のCBT-Medicalによる小テスト（70%）、各班1回のプレゼンテーション（15%）と出席点（15%：欠席1回につき5%減点）の100点満点の評価で、「可（65点）」以上を合格とする。フィードバックはCBT-Medicalにおいて正答を開示する。プレゼンテーション評価基準については発表内容、発表時間、質問対応、準備状況、その他の5項目について評価する。

7. 教本

寺田春水、藤田恒太郎 著「解剖実習の手引き」南山堂
佐藤達夫 訳「あたらしい人体解剖学アトラス」第1版 MEDSi

8. 参考書

上條雍彦著「口腔解剖学1～5」 アナトーム社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	9／5	人体解剖学実習1	解剖実習オリエンテーション、体表観察 頸部皮神経・皮静脈	A-3-1, 2／ 必4-ア	① ②
5 6 7 8	9／12	人体解剖学実習2	頸部浅層・中層の筋・脈管・神経浅胸筋、腹部の筋	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9 10 11 12	9／19	人体解剖学実習3	頸部深層の筋・脈管・神経、甲状腺、腋窩、大腿伸筋、大腿三角	A-3-1, 2／ 必4-ア	① ②
13 14 15 16	9／26	人体解剖学実習4	耳下腺、顔面神経、鎖骨下動静脈、腕神経叢、上肢屈筋	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
17 18 19 20	10／3	人体解剖学実習5	顔面筋、顔面動静脈、開胸、肺	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
21 22 23 24	10／10	人体解剖学実習6	耳下腺神経叢、顔面動静脈、後縦隔、心臓	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
25 26 27 28	10／17	人体解剖学実習7	顔面神経、舌骨上筋、開腹腹部動脈	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
29 30 31 32	10／24	人体解剖学実習8	後頭筋浅層、背部の浅層・中層の筋	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
33 34 35 36	12／31	人体解剖学実習9	後頭下三角、頭部切断、脊髓、殿部深層	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
37 38 39 40	11／7	人体解剖学実習10	咽頭、頭部矢状断、腹部内臓	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
41 42 43 44	11／14	人体解剖学実習11	眼窩、舌、鼻腔、後腹壁、横隔膜、腰神経叢	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
45 46 47 48	11／21	人体解剖学実習12	咀嚼筋、顎動脈、骨盤内臓	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
49 50 51 52	11／28	人体解剖学実習13	顎関節、側頭下窩、下顎管、中枢神経	A-3-1, 2／ 必4-ア	ク
53 54 55 56	12／5	人体解剖学実習14	口蓋、舌下神経管、三叉神経、喉頭、気管	A-3-1, 2／ 必4-ア	① ② ④
57 58 59 60	12／12	人体解剖学実習15	三叉神経、副鼻腔、後片付け及び納棺	A-3-1, 2／ 必4-ア	① ②

口腔組織学（通年・4単位）

D③B-a4-2505(D2505)

科目責任者：安部 仁晴（組織・教授）

科目担当者：①安部 仁晴（組織）、②中川 敏浩（組織）、
③荒木 啓吾（組織）、④山本 仁（客員）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

組織学は、細胞・組織・器官について、正常構造の微細形態を明らかにする学問である。この組織学の一部として、細胞を総合的に分子レベルでとらえる細胞生物学と、受精に始まり、死に至るまでの継続的過程を明らかにする発生学があり、この二つの分野を包括的に捉えて講義する。口腔組織学の理解なくして口腔諸器官における疾患ならびに全身に至る疾病を把握することは不可能である。口腔組織学において、如何に知識を融合させて修得できるか否かが、歯科医師としての成否を握っているといっても過言ではない。本教科は、他の基礎科目の基盤であり、さらに診断や治療方針のエビデンスとして役立てなければならない学問である。

2. 一般目標

疾病を治療対象とした基礎知識を得るために、細胞、組織、人体諸器官、さらに歯と歯周組織をはじめ口腔諸器官の正常構造と微細構造を機能と結びつけ、それらの発生過程、加齢変化を理解する。

3. 到達目標

- 1) 細胞および上皮、結合、軟骨、骨、筋、神経組織の構造と機能を説明する。
- 2) 消化器、呼吸器、循環器、免疫性器官、内分泌器、泌尿生殖器、感覚器、中枢神経系各器官の構造と機能を説明する。
- 3) 歯と歯周組織および口腔周囲器官の微細構造と機能を説明する。
- 4) 顔面と口腔の発生および加齢変化を説明する。

4. 履修の進め方

講義を主体として、媒体には穴埋めプリント、スライド、コンピューター画像、教科書、参考図書を用いて、細胞や組織像について説明を加える。

5. 準備学修

事前に当日の授業内容に関して、教科書を一読してくる（事前学習：20分）。講義後は、ノートとアトラスや教科書を照らし合わせ、細胞や組織の特徴と機能を把握する（事後学習：20分）。また、疑問点は、オフィスアワーを活用して解決する。

6. 評価方法

組織学では総論（前期中間試験）と各論（前期定期試験）、口腔組織学では発生学、歯の三硬組織と歯髄（後期中間試験）、歯周組織、口腔諸器官、歯の発生および加齢変化（後期定期試験）において、計4回の記述試験（各25%）を行い、65点以上で合格とする。フィードバックは、不合格者に答案を開示して解説を行う。追・再試験は、願出により各1回ずつ行い、得点は本試験、追・再試験のどちらか高い方とする。ただし、後期定期試験は本学試験規程に従う。

7. 教本

磯川桂太郎、安部仁晴 他著「組織学・口腔組織学」第5版 わかば出版 2024

8. 参考書

藤田尚男 藤田恒夫著「標準組織学」総論 各論 第6版 医学書院2022

Alan Stevens 著 内山安男 他訳「人体組織学」原書第2版 南江堂 2004

脇田 稔 他編「口腔組織・発生学」第2版 医歯薬出版 2015

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	組織学総論、細胞学(1)	組織学の研究手法、核の構造と機能	A-1-4/必4-ア	①
2	4/9	細胞学(2)	細胞小器官の構造と機能(1)	A-1-4/必4-ア	ク
3	4/16	細胞学(3)	細胞小器官の構造と機能(2)	A-1-4/必4-ア	ク
4	4/16	細胞学(4)	細胞骨格の構造、細胞膜の構造と機能	A-1-4/必4-ア	ク
5	4/23	細胞学(5)	細胞周期と細胞分裂、接着装置	A-1-4、-5/必4-ア	ク
6	4/23	上皮組織(1)	上皮の形態的分類とその特徴、機能	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-ア	ク
7	5/7	上皮組織(2)	上皮の機能的分類、基底膜	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-ア	ク
8	5/7	腺組織	外分泌腺の構造と分泌様式	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ6-オ	ク
9	5/14	結合組織(1)	結合組織の分類と存在する線維の種類	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-ア	ク
10	5/14	結合組織(2)	結合組織に存在する細胞の特徴と機能	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-ア	ク
11	5/21	軟骨組織	軟骨組織の分類と特徴および微細構造	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-イ	ク
12	5/21	骨組織(1)	骨組織の組織学的特徴とリモデリング	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-イ	ク
13	5/28	骨組織(2)	骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞の特徴と機能	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-イ、8-ウ	ク
14	5/28	骨組織(3)	骨の発生と石灰化機序	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ8-ウ	ク
15	6/4	血液	血液とリンパの成分	A-3-1/必4-ア	ク
16	6/4	造血器	造血器と血球の形成過程	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-カ	ク
17	6/11	筋組織(1)	骨格筋の構造と収縮機構	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-イ	ク
18	6/11	筋組織(2)	心筋と平滑筋の特徴と微細構造	A-3-1/必4-ア 総Ⅱ1-イ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19	6／18	神経組織(1)	神経細胞の分類と微細構造	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	①
20	6／18	神経組織(2)	シナプスの形態学的特徴と神経伝達物質	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	ク
21	6／25	神経系	中枢神経と末梢神経の組織学的特徴	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	ク
22	6／25	循環器系	血管系の構造と特徴および差異	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ウ	ク
23	7／2	消化器系(1)	食道、胃の組織学的特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-オ	ク
24	7／2	消化器系(2)	小腸、大腸の組織学的特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-オ	ク
25	7／9	消化器系(3)	肝臓、膵臓の組織学的特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-オ	ク
26	7／9	呼吸器系	鼻腔、気管、肺の組織学的特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-エ	ク
27	7／16	泌尿器系	腎臓、膀胱の組織学的特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-キ	ク
28	7／16	内分泌系(1)	下垂体、甲状腺の構造と分泌するホルモン	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ケ	②
29	7／23	内分泌系(2)	副腎、副甲状腺、松果体の構造と分泌するホルモン	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ケ	ク
30	7／23	免疫系	リンパ節、胸腺、脾臓の特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ3-ア、イ	ク
31	9／3	感覚器系(1)	嗅覚器の特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	③
32	9／3	感覚器系(2)	視覚器の組織学的特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	ク
33	9／10	感覚器系(3)	聴覚・平衡感覚器の特徴と機能	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-ク	ク
34	9／10	生殖器系(1)	男性生殖器の構造と機能 精子形成過程	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-キ	ク
35	9／17	生殖器系(2)	女性生殖器の構造と機能 卵子形成過程	A-3-1／ 必4-ア 総Ⅱ1-キ	ク
36	9／17	顎・顔面の発生(1)	個体発生、器官発生	A-2-1／ 必5-ア	ク
37	9／24	顎・顔面の発生(2)	鰓弓、鰓嚢、鰓溝から形成される組織	A-2-1、-4／ 必5-ア 総Ⅱ8-ア	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
38	9／24	顎・顔面の発生(3)	顔面と口蓋の形成	A-2-4／ 必5-ア 総Ⅱ8-ア	③
39	10／1	顎・顔面の発生(4)	舌、唾液腺、甲状腺、下垂体の発生	A-2-4／ 必5-ア 総Ⅱ8-ア	ク
40	10／1	エナメル質(1)	エナメル質の基本構造	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
41	10／8	エナメル質(2)	エナメル質の成長線と構造物	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
42	10／8	象牙質(1)	象牙質の基本構造と石灰化機構	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
43	10／15	象牙質(2)	象牙質の成長線と構造物	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
44	10／15	歯髄(1)	歯髄にみられる細胞と線維	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
45	10／22	歯髄(2)	歯髄表層の構造、歯髄の脈管と神経	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
46	10／22	セメント質	セメント質の基本構造、分類と形成過程	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
47	10／29	歯根膜(1)	歯根膜の細胞と機能	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
48	10／29	歯根膜(2)	歯根膜線維の種類と走行	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
49	11／5	歯肉	歯肉の分類と上皮の組織学的特徴	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	ク
50	11／5	歯槽骨	歯槽骨の区分と形態学的特徴	A-3-4／ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	②
51	11／12	皮膚と粘膜、口腔粘膜	皮膚と粘膜の基本構造、口腔粘膜の分類	A-3-1、-3／ 必5-ア 総Ⅱ4-オ	ク
52	11／12	顎関節と扁桃	顎関節、扁桃の構造と組織学的特徴	A-3-2／ 必4-ア 総Ⅱ4-イ、オ	ク
53	11／19	舌、口蓋	舌、硬口蓋と軟口蓋の組織学的特徴	A-3-3／ 必4-ア 総Ⅱ4-オ	ク
54	11／19	唾液腺	大唾液腺、小唾液腺の組織学的特徴	A-3-3／ 必4-ア 総Ⅱ4-オ	ク
55	11／26	歯の発生(1)	歯胚の構造と分化	A-3-4／ 必5-ウ 総Ⅱ8-イ	④
56	11／26	歯の発生(2)	歯根および歯周組織の発生	A-3-4／ 必5-ウ 総Ⅱ8-イ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
57	12／3	歯の発生(3)	エナメル質の形成と石灰化	A-3-1／ 必5-ウ 総Ⅱ8-イ	①
58	12／3	歯の発生(4)	象牙質の形成と石灰化	A-3-1／ 必5-ウ 総Ⅱ8-イ	〃
59	12／10	口腔の加齢変化(1)	歯と歯周組織の加齢変化	A-2-4／ 必5-エ 総Ⅱ7-エ 各V3-イ	〃
60	12／10	口腔の加齢変化(2)	唾液腺、舌、顎関節の加齢変化	A-2-4／ 必5-エ 総Ⅱ7-エ 各V3-イ	〃

口腔組織学実習（後期・1単位）

D②③B-cl-2506(D2506)

科目責任者：安部 仁晴（組織・教授）

科目担当者：①安部 仁晴（組織）、②中川 敏浩（組織）、
③荒木 啓吾（組織）、④森山 光（組織）、
⑤山本 仁（客員）、⑥釜田 朗（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

近年の歯科医学は、疾患の原因、病状の把握、更にはエビデンスに基づいた治療方針と病状の転帰を理解することが求められている。人体の正常構造と機能の理解なくしては、病変さらには治療方針を理解し把握することは不可能なことから、その基盤となる組織学、口腔組織学の修得が重要となる。本実習は、上皮、結合、筋、神経などの総論、消化器、呼吸器、循環器、内分泌などの各論、歯、歯周組織、舌、唾液腺、口蓋、扁桃、歯の発生などの口腔組織について実習する。本実習は、講義で学んだ内容を自分自身の目で確認し、理解を深めることが主たる目的である。

2. 一般目標

人体と口腔諸器官における特徴と機能を理解するために、光学顕微鏡を用いて、細胞、組織の正常構造、歯と歯周組織をはじめとする口腔諸器官の正常微細構造、それらの発生過程の知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 上皮、腺、軟骨、骨、筋、血液、血管、神経の各細胞と組織について、各部の名称と機能を説明する。
- 2) 消化器系、呼吸器系、内分泌系、泌尿生殖器系、感覚器系、中枢神経系の器官について、組織の構造と機能を説明する。
- 3) 歯の研磨標本と脱灰標本を観察し、エナメル質、象牙質、セメント質の微細構造を説明する。
- 4) 歯周組織の微細構造と組織学的特徴を説明する。
- 5) 歯の発生の標本からエナメル質、象牙質、セメント質、歯周組織の形成機構を説明する。
- 6) 口腔粘膜、唾液腺、舌、口蓋、扁桃など口腔諸器官の微細構造と機能を説明する。

4. 履修の進め方

毎回画像説明を中心とした実習前講義を受け、各種細胞、組織の形態学的特徴を把握し、スケッチを行う。なお、媒体は光学顕微鏡を使う。さらに教科書、参考図書、スライド、PC画像、講義プリント等を使用する。

5. 準備学修

「組織学・口腔組織学実習の指針」を一読し、当日の実習内容を把握する。実習の指針に沿った内容で、毎回小テストを行うので、内容は必ず把握しておく（事前学習：20分）。実習後は、実習で描いた図と教科書やアトラスの図とを比較し、講義で学んだ内容の理解を深める（事後学習：15分）。

6. 評価方法

一般組織学（10/22）と口腔組織学（12/10）の実習終了時に行う実習試験にて評価する。試験の合計点数（80％）に、リクワイアメント（20％）を加え最終評価とし、65点以上で合格とする。実習試験の追・再試験は、願い出により各1回ずつ行い、得点は本試験、追・再試験のどちらか高い方とする。また、フィードバックは、答案を開示して行う。

7. 教本

磯川桂太郎 他編「カラーアトラス口腔組織発生学」第4版 わかば出版 2016

「組織学・口腔組織学実習の指針」教室作成 2024

8. 参考書

Paul R. Wheater 著 柴崎晋 監訳「カラーアトラス組織学」
西村書店 2010

相磯貞和 訳「人体組織図譜」原書第11版 南江堂 2011

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9 / 3	上皮組織・筋組織	単層円柱, 多列線毛, 重層扁平上皮, 平滑筋, 骨格筋, 心筋	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-ア, イ	①
2					②
3					③
4					④
5	9 / 10	軟骨組織・骨組織・骨の発生	硝子, 弾性, 線維軟骨 骨の研磨標本と骨化様式	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-イ, 8-ウ	①
6					②
7					③
8					④
9	9 / 17	消化器系①	食道, 胃, 小腸, 大腸	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-オ	①
10					②
11					③
12					④
13	9 / 24	消化器系②・泌尿器系	肝臓, 脾臓, 腎臓	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-オ, キ	ク
14					
15					
16					
17	10 / 1	呼吸器系・中枢神経系	気管, 肺, 小脳, 脊髄	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-エ, ク	ク
18					
19					
20					
21	10 / 8	血液・免疫系	血液の塗抹標本とリンパ節, 脾臓, 胸腺	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ3-イ	ク
22					
23					
24					
25	10 / 15	内分泌系	副腎, 甲状腺下垂体	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-ケ	ク
26					
27					
28					
29	10 / 22	一般組織学のまとめ	各組織と各器官系のまとめ	A-3-1/ 必4-ア 総Ⅱ1-ア～ケ 総Ⅱ3-イ	ク
30					
31					
32					
33	10 / 29	歯の研磨標本 脱灰標本	エナメル質, 象牙質, セメント質の微細構造, 歯髄の構造と細胞	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
34					②
35					③
36					④
37	11 / 5	歯周組織	歯根膜, 歯肉 歯槽骨の微細構造	A-3-4/ 必4-ア 総Ⅱ5-イ	①
38					②
39					③
40					④
41	11 / 12	口唇, 扁桃	口唇, 舌扁桃 口蓋扁桃の組織学的特徴	A-3-3/ 必4-ア 総Ⅱ4-オ	ク
42					
43					
44					
45	11 / 19	軟口蓋, 舌	軟口蓋, 舌乳頭(味蕾)の組織学的特徴	A-3-3/ 必4-ア 総Ⅱ4-オ	ク
46					
47					
48					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
49	11 / 26	唾液腺	耳下腺, 顎下腺, 舌下腺の組織学的差異	A-3-3/ 必4-ア 総Ⅱ4-オ	①
50					②
51					③
52					④
53	12 / 3	歯の発生	蕾状期, 帽状期, 鐘状期歯胚とエナメル質, 象牙質の形成	A-3-4/ 必5-ウ 総Ⅱ8-イ	①
54					②
55					③
56					④
57	12 / 10	口腔組織学のまとめ	歯と歯周組織および口腔諸器官のまとめ	A-3-3, -4/ 必4ア, 5-ウ 総Ⅱ4-オ, 5-イ, 8-イ	①
58					②
59					③
60					④

口腔生理学Ⅰ（通年・3単位）

D③B-a1-2507(D2507)

科目責任者：川合 宏仁（生理・教授）

科目担当者：①川合 宏仁（生理）、②大須賀謙二（生理）、
③古山 昭（生理）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学は、細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され、その修復が困難な時に病気となる。それゆえ、正しい治療や予防措置を施すためには、病気の原因や患者の状態を正確に把握していなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり、それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することはできないと言ってよい。講義には、近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち、独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され、多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として、生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学、あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では、臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し、把握することを目標とする。したがって、学習に際しては、基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では、顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基礎的事項については重点的に十分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては、種々の生命現象を営む生体の機構、特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき、また、各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること、および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

2. 一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために、生体機能、生命現象の機序を理解する。

3. 到達目標

- 1) 生命現象を営む生体の機構を説明できる。
- 2) 各器官の協調活動を説明できる。
- 3) 歯科疾患の病態生理を説明できる。

4. 履修の進め方

講義を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し、人体の構造、詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

5. 準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため、これらの科目と連動させて学習すること。予習は、シラバスで内容を確認して、教科書・参考書で学習する（10分）。復習は、講義内容について講義ノート（プリント）・教科書・参考書で学習する（40分）。履修後は、すべての科目につながるため、繰り返し学習することが重要である。

6. 評価方法

前期の定期試験、および後期の中間試験と定期試験の各試験において、65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。追試験該当者に対し

ては、100点満点として試験を行い、65点以上を合格とする。

前期の定期試験、および後期の中間試験と定期試験の合計3回の平均点が、65点以上獲得した者を進級とする。なお、試験問題の内容に関しては、多肢選択問題と記述式問題の出題を行う。

後期の中間試験の施行日に関しては、講義の進行具合をみて、変更することがあるので注意すること。

7. 教本

和泉博之・浅沼直和 編「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版 学建書院 2021

岩田幸一・井上富雄ほか 編 第7版「基礎歯科生理学」医歯薬出版 2020

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	口腔生理学総論	口腔生理機能の意義および特徴	A-3-1/ 総Ⅱ-1-ク, 総Ⅱ-1-ク	③
2	4/17	興奮性組織(Ⅰ)	興奮性細胞の基本動作	A-1-4/ 総Ⅱ-1-ク	ク
3	4/24	興奮性組織(Ⅱ)	刺激と興奮のしくみ	A-3-1/ 必-4-ア	ク
4	5/8	興奮性組織(Ⅲ)	興奮伝導のメカニズム	A-3-1/ 総Ⅱ-1-ク	ク
5	5/15	シナプス伝達	シナプスの種類と構造、伝達の特徴、神経伝達物質	A-3-1/ 総Ⅱ-1-ク	ク
6	5/22	骨格筋収縮	骨格筋の構造と興奮収縮連関	A-3-1/ 総Ⅱ-1-イ	ク
7	5/29	感覚(Ⅰ)	感覚受容器と感覚の種類、感覚神経	A-3-1/ 必-4-ア 総Ⅱ-1-ク	②
8	6/5	感覚(Ⅱ)	体性感覚(触・圧・温度・痛覚)	A-3-1/ 必-4-ア 総Ⅱ-1-ク	ク
9	6/12	感覚(Ⅲ)	特殊感覚(視覚、聴覚、平衡感覚・嗅覚)	A-3-1/ 必-4-ア 総Ⅱ-1-ク	ク
10	6/19	咀嚼(Ⅰ)	咀嚼の生理的意義、咀嚼運動	A-3-2/ 必-4-ア, 総Ⅱ-6-ウ	ク
11	6/26	咀嚼(Ⅱ)	咀嚼運動の神経・筋機構	A-3-2/ 必-4-ア, 総Ⅱ-6-ウ	ク
12	7/3	顎・口腔・顔面の体性感覚(Ⅰ)	歯髄感覚と歯痛、歯根膜感覚	A-3-3/ 総Ⅱ-6-ア	③
13	7/10	顎・口腔・顔面の体性感覚(Ⅱ)	顎顔面領域・口腔領域の体性感覚と顎反射	A-3-2, A-3-3/ 総Ⅱ-6-ア, 総Ⅱ-6-イ	ク
14	7/17	自律機能(Ⅰ)	自律神経系の構造、性質	A-3-1/ 必-4-e, 総Ⅱ-1-ク	②
15	7/24	自律機能(Ⅱ)	自律神経の中樞性調節	A-3-1/ 必-4-e, 総Ⅱ-1-ク	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16	9／4	神経束の興奮伝導	末梢神経伝導検査・局所麻酔	A-2-3, D-1-2/ 総Ⅱ-1-ア, 総Ⅱ-6-ク	③
17	9／4	血液(Ⅰ)	血液の役割	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-カ	①
18	9／11	血液(Ⅱ)	細胞成分の種類と役割	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-カ	ク
19	9／11	血液(Ⅲ)	血漿成分と機能	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-カ	ク
20	9／18	循環(Ⅰ)	体循環と肺循環, 血管の特性	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	ク
21	9／18	循環(Ⅱ)	心臓の構造と心筋の特性	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	ク
22	9／25	循環(Ⅲ)	刺激興奮伝達系	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	ク
23	9／25	循環(Ⅳ)	血圧と心拍の調節	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ウ	ク
24	10／2	呼吸(Ⅰ)	呼吸器の形態と呼吸運動	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-エ	ク
25	10／2	呼吸(Ⅱ)	ガスの交換・運搬, 酸塩基平衡	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-エ	ク
26	10／9	呼吸(Ⅲ)	呼吸器の形態と呼吸運動	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-エ	ク
27	10／9	呼吸(Ⅳ)	スパイロメーターと肺気量	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-エ	ク
28	10／16	味覚(Ⅰ)	味覚受容機構と中枢機序	A-3-1/ 総Ⅱ-6-ア, 総Ⅱ-7-ウ	③
29	10／16	味覚(Ⅱ)	味覚障害と歯科臨床における味覚	A-3-1, D-3-1/ 総Ⅱ-6-ア, 総Ⅱ-7-ウ, 総Ⅳ-1-イ	ク
30	10／23	心筋・平滑筋の収縮	心筋・平滑筋の構造, 効果器としての役割	A-3-1/ 総Ⅱ-1-イ, ウ	ク
31	10／23	内分泌(Ⅰ)	ホルモンの種類と受容・作用機序	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ケ	②
32	10／30	内分泌(Ⅱ)	ホルモンの働きと機能, 生体恒常性の液性調節	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ケ	ク
33	10／30	内分泌(Ⅲ)	神経-液性調節の仕組み	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ケ	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
34	11／6	咬合・下顎位	生理的咬合・下顎位の種類	A-3-2, D-5-5/ 総Ⅱ-6-イ	③
35	11／6	顎運動(Ⅰ)	咀嚼筋と顎関節の役割	A-3-1	ク
36	11／13	内分泌(Ⅳ)	内分泌のまとめ	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ケ	②
37	11／13	消化と吸収(Ⅰ)	胃腸の構造と運動および神経支配	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-オ	ク
38	11／20	顎運動(Ⅱ)	顎運動の神経機構, 顎反射Ⅰ 顎運動の筋機構, 顎反射Ⅱ	A-3-1, D-5-5/ 総Ⅱ-6-イ	③
39	11／20	口唇・頬・顔面・舌運動	口唇・頬・顔面筋運動の神経・筋機構 舌反射, 舌運動の神経・筋機構	A-3-2, A-3-2, A-3-3/ 総Ⅱ-6-イ	ク
40	11／27	消化と吸収(Ⅱ)	消化液と栄養分の吸収	A-3-1/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-オ	②
41	11／27	唾液(Ⅰ)	唾液腺, 唾液の種類と性状	A-3-3/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ク	ク
42	12／4	唾液(Ⅱ)	唾液腺の分泌機構と機能, 唾液の生成機序	A-3-3/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ク	ク
43	12／4	唾液(Ⅲ)	唾液腺の代謝と血流, 唾液と口腔疾患	A-3-3/ 必-4-ア, 総Ⅱ-1-ク	ク
44	12／11	受容体	自律神経のシナプスと受容体	A-1-5, A-3-1/ 必-4-ア	③
45	12／11	まとめ	興奮性組織のまとめ	A-3-1, A-3-1/ 総Ⅱ-1-ア～コ, 総Ⅱ-4-ア～キ	ク

口腔生理学実習（後期・1単位）

D②③B-c1-2509(D2509)

科目責任者：川合 宏仁（生理・教授）

科目担当者：①川合 宏仁（生理）、②大須賀謙二（生理）、
③古山 昭（生理）、④山崎 信也（麻酔）、
⑤富田 修（麻酔）、⑥木村 楽（麻酔）、
⑦今井 彩乃（麻酔）、⑧佐藤 光（麻酔）、
⑨鈴木香奈美（麻酔）、⑩高橋 晃司（麻酔）、
⑪若松慶一郎（麻酔）、⑫中瀬 由希（麻酔）、
⑬富田 祐介（非常勤）

※この科目は、主に診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学実習の意義は、学生が講義で学んだことを目でみて理解することにある。講義で習得した知識を自ら実習で実証し、体系化した知識にして一層の理解を深めることである。

実習では、動物あるいはヒトを対象に、いろいろな道具を用いて生物現象、運動および感覚機序がどのようなものであるかを体験し、教科書や講義の内容を十分に理解することが重要である。

実習を通じて、創意工夫を養い、注意深い観察、記録、考察ができるように努力することが必要である。

2. 一般目標

生体機能と生命機能の理解を深めるために、全身および口腔の機能について実体験する。

3. 到達目標

- 1) 心電図を測定できる。
- 2) 呼吸機能を測定できる。
- 3) 神経の興奮伝導速度を測定できる。
- 4) 筋の収縮機能を説明できる。
- 5) 血圧を測定できる。
- 6) 味覚閾値を測定できる。
- 7) 感覚点を測定できる。
- 8) 2点弁別閾を測定できる。
- 9) 咀嚼能率を測定できる。
- 10) 出血時間を測定できる。
- 11) 血液型を判定できる。

4. 履修の進め方

本実習では、一般生理学と口腔生理学に関する実習を12コマ行う。学生は、大きく4グループに分かれ各グループ毎に実習する。内容は、臨床に結びつく内容のため、実習と講義を織り交ぜながら学習する。実習後は、レポート作成を行い、復習を兼ねて、学生自ら知識の総まとめを行う。

5. 準備学修

オリエンテーション時に配布する実習予定表を確認して実習内容の予習を行う（10分）。実習後に課せられた課題について復習し、分からない点は解決するように努力する（60分）。

6. 評価方法

各グループで行う到達目標1)～11)をクリアした場合、40点満点として評価する。

各グループで課せられたレポートを30点満点として評価する。

各グループから出題された実習試験の結果を30点満点として評価する。

各グループ毎に、採点された結果を平均して、65点以上を合格とする。

レポートのフィードバックは添削して個人へ返却する。

7. 教本

「歯科生理学実習書」奥羽大学歯学部口腔生理学教室編
令和4年度版

8. 参考書

「ビジュアル 生理学・口腔生理学 第3版」学建書院
「基礎 歯科生理学 第7版」医歯薬出版

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	9／4	オリエンテーション	生理学実習を行う際の心構え、留意事項 レポート提出方法を伝達し 動物実験の3Rについて説明する。	C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-2-6, C-2-7/ 必1-ア, 総I-6-ア	①) ⑧
4 5 6	9／11) 10／16	口腔内体性感覚	刺激毛、針、熱伝導子を用いて口腔内体性感覚の種類と分布を調べる。また、歯牙の触域値と位置感覚についても検査する。	A-3-1, A-3-3/ 必-4-ア, 総II-1-ク, 総II-6-ア, 総VI-5-ア	ク
7 8 9	9／11) 10／16	咀嚼機能	篩分法により咀嚼能率を求め、咀嚼能率に影響する因子を考える。	A-3-2, A-3-2/ 必-4-ア, 総II-6-ウ, 総VI-1-イ	ク
10 11 12	9／11) 10／16	血圧測定	触診法、聴診法による血圧測定を学ぶ。	A-3-1, D-2-3, E-2-3/ 必-4-ア, 必-8-エ, 総II-1-ウ, 総V-1-カ	ク
13 14 15	9／11) 10／16	出血時間測定と血液型判定	出血時間の測定方法と血液型判定法を行い、そのしくみと判定する機序について学ぶ。	A-3-1/ 必-4-ア, 総II-1-カ, 総VI-3-ア	ク
16 17 18	9／11) 10／16	神経束の興奮伝導	カエルの坐骨神経標本による活動電位を記録後、興奮伝導速度を測定し、不応期および麻酔効果について学ぶ。	A-3-1, D-1-2/ 必4-ア, 総II-1-ク	ク
19 20 21					
22 23 24	10／23	実習試験1回目	実習内容に対する筆記試験		ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
25 26 27	10／30 12／4	換気機能	スパイロメータを用いて、時間肺活量を測定後、努力性肺活量や1秒率を評価し換気機能障害について考察する。	A-3-1／ 必-4-ア、 総Ⅱ-1-エ、 総Ⅵ-4-ア	① ⑧
28 29 30	10／30 12／4	骨格筋の収縮	ヒトとカエルの骨格筋の収縮を観察し、筋収縮機構について考察する。	A-3-1、 A-3-2／ 総Ⅱ-1-イ、 総Ⅱ-4-ウ、 総Ⅱ-6-イ	ク
31 32 33	10／30 12／4	味覚	味覚感受性について、全口腔法、ろ紙法あるいは電気味覚法により閾値を調べ、個人差を検討する。	A-3-1／ 総Ⅱ-6-ア、 総Ⅱ-7-ウ、 総Ⅵ-1-イ	ク
34 35 36	10／30 12／4	心電図	心電図を採得し、臨床生理学的意味を考察する。	A-3-1／ 必-4-ア、 総Ⅱ-1-ウ、 総Ⅵ-4-ア	ク
37 38 39					
40 41 42					
43 44 45	12／11	実習試験2回目	実習内容に対する筆記試験		ク

口腔生化学Ⅰ（後期・1単位）

D③B-a1-2510(D2510)

科目責任者：加藤 靖正（生化・教授）

科目担当者：①加藤 靖正（生化）、②前田 豊信（生化）、
③神林 直大（生化）

1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが、生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ、糖やアミノ酸、リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅰでは、一般生化学として代謝を中心に学習し、医師やパラメディカルスタッフなどの医療従事者との間で共通の認識を養うことを目的とする。また、3年次で行われる口腔生化学Ⅱを理解するのに必要な知識の整理を行う。

2. 一般目標

生体を構成する成分や機能について、個々に理解を深めるとともに、異なる成分同士のつながりやホルモンなどにより巧妙に調節された機能などの分子メカニズムなどを理解する。また、代謝の破たんが原因となる疾患については、その成り立ちを生化学的側面から学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
- 2) 遺伝情報の保存と発現について説明できる。
- 3) 代謝における酵素の働きを説明できる。
- 4) 糖代謝と脂肪酸代謝によるエネルギー産生機序が説明できる。
- 5) 糖新性、脂質合成の機序を説明できる。
- 6) 代謝の破たんと疾病の成り立ちについて例を挙げて説明できる。

4. 履修の進め方

- 予 習：教科書（該当箇所のページ）を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。
- 講 義：予習内容の確認と知識の整理を行う。また、予習中に見出された疑問点を解決する。
- 復 習：学修内容を整理するとともに、事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。
- その他：新たに生じた疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学 第4版（学研書院）を読み、予め疑問点を見出しておく（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

定期試験（多肢選択形式、100点満点）で65点以上を合格とする。追・再試験は、65点以上を合格とする。再試験の評価は、65点以上を65点とし、追試験の評価は、90点以上を90点とする。本試験、追・再試験以外の試験は評価しない。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学 第4版（学研書院）

8. 参考書

口腔生化学 第6版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	核酸Ⅰ	核酸の種類と構造, 半保存的複製	A-1-3/ 必4-ア	② ③
2	9/11	核酸Ⅱ	PCRの原理, 遺伝子発現, タンパク質合成	A-1-3/ 必4-ア	ク
3	9/18	核酸Ⅲ	ヌクレオチド代謝, 痛風, Lesch-Nyhan症候群	A-1-3/ 必4-ア	ク
4	9/25	糖質Ⅰ	糖の分類, グリコシド結合とグリコシダーゼ	A-1-2/ 必4-ア	①
5	10/2	糖質Ⅱ	解糖系(嫌氣的, 好氣的), シャトル経路	A-1-2/ 必4-ア	ク
6	10/9	糖質Ⅲ	TCA サイクル, 酸化的リン酸化, 電子伝達系	A-1-2/ 必4-ア	ク
7	10/16	糖質Ⅳ	基質準位のリン酸化, エネルギー収支	A-1-2/ 必4-ア	ク
8	10/23	糖質Ⅴ	ペントースリン酸経路, 糖新生性, von Gierke 病	A-1-2/ 必4-ア	ク
9	10/30	糖質Ⅵ	血糖調節	A-1-2, A-3-1/ 必4-ア	ク
10	11/6	脂質Ⅰ	脂質の分類, 細胞膜とリン脂質, 糖脂質とABO式血液型物質	A-1-2/ 必4-ア	ク
11	11/13	脂質Ⅱ	流動モザイクモデル, 脂質の分解酵素	A-1-2/ 必4-ア	ク
12	11/20	脂質Ⅲ	脂質の消化吸収, 脂質の輸送・リポ蛋白質, 粥状動脈硬化	A-1-2/ 必4-ア	ク
13	11/27	脂質Ⅳ	飢餓と糖尿病とアシドーシス脂肪酸代謝(β 酸化), 脂質の合成(脂肪酸)	A-1-2/ 必4-ア・7-ウ	ク
14	12/4	脂質Ⅴ	脂質の合成(中性脂肪, グリセロリン脂質, コレステロール)	A-1-2/ 必4-ア	ク
15	12/11	脂質Ⅵ	アラキドン酸代謝, エイコサノイド, 炎症, 血栓	A-1-2/ 必4-ア	ク

口腔感染免疫学Ⅰ (通年・2単位)

D③④B-a2-2601(D2601)

科目責任者：玉井利代子(感染・教授)

科目担当者：①玉井利代子(感染), ②清浦 有祐(感染)

※この科目は, 診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物について講義を行う。さらに微生物の感染に対してヒトは免疫応答と呼ばれる宿主反応を起こすことで病原微生物を排除する。この免疫応答を担う白血球の様々な働きや抗体の作用について分子レベルまで掘り下げて詳しく説明する。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とその微生物に対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。

- 1) 微生物の種類とその特性を理解する。
- 2) 病原微生物の病原性を理解する。
- 3) 滅菌, 消毒及び化学療法について理解する。
- 4) 齲蝕と歯周病の原因菌を理解する。
- 5) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を理解する。

3. 到達目標

- 1) 微生物の種類とその特性を説明する。
- 2) 病原微生物の病原性を説明する。
- 3) 滅菌, 消毒及び化学療法について説明する。
- 4) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に学習者に質問し, それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

5. 準備学習

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので, 当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと(15分)。

6. 評価方法

定期試験(100点満点)で評価する。65点以上を合格とする。試験問題は記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し, 学生から意見があれば対応する。追試験は100点満点で採点し, その点数を評価とする。再試験は100点満点で採点し, 65点以上は「65点」とする。

7. 教本

口腔微生物学－感染と免疫－ 第7版 学建書院 2021年

8. 参考書

標準微生物学 第14版 医学書院 2021年

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/12	微生物概論	微生物の種類とその特徴	A-4-1-1/ 必-4-イ-a	②
2	4/19	細菌の形態	細菌の形態と構造	A-4-1-1/ 必-4-イ-a	①
3	4/26	細菌の毒素	細菌の毒素	A-4-1-2/ 総Ⅲ-1-キ-a	ク
4	5/10	特殊な細菌	芽胞・リケッチャ・クラミジア	A-4-1-1/ 必-4-イ-a	ク
5	5/17	細菌の遺伝学と生理学	細菌の遺伝子伝達と増殖メカニズム	A-4-1-1, 2/ 必-4-イ-a	ク
6	5/24	ウイルスの種類と特徴	ウイルスの特徴と種類	A-4-1-1/ 必-4-イ-a	ク

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
7	5／31	感染症	新興感染症・再興感染症・輸入感染症・院内感染	A-4-1-3, 4, 9／ 総Ⅲ-1-キ-b	①
8	6／7	細菌の病原因子	細菌の病原因子の特徴とその発現メカニズム	A-4-1-2／ 総Ⅲ-1-キ-a	〃
9	6／14	細菌感染症Ⅰ	AMR のメカニズムと感染症	A-4-1-7, 9／ 総Ⅲ-1-キ-a	〃
10	6／21	細菌感染症Ⅱ	結核とその他の抗酸菌感染症	A-4-1-2, 3／ 各Ⅲ-4-ウ-c	〃
11	6／28	細菌感染症Ⅲ	レンサ球菌感染症	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
12	7／5	細菌感染症Ⅳ	大腸菌・赤痢菌・マイコプラズマ感染症	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
13	7／12	細菌感染症Ⅴ	その他の細菌感染症	A-4-1-2, 3／ 各Ⅲ-4-ウ-a, b, 各Ⅴ-2-エ-k	〃
14	7／19	真菌感染症	カンジダ症などの真菌感染症	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
15	7／26	滅菌	滅菌法の種類とその特徴	A-4-1-8／ 必-11-エ-a	〃
16	9／2	消毒	消毒法の種類とその特徴	A-4-1-8／ 必-11-エ-a	〃
17	9／9	ヘルペスウイルス	ヘルペスウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
18	9／30 4限	B型肝炎ウイルス	B型肝炎ウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
19	9／30 5限	C型肝炎ウイルス	C型肝炎ウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
20	10／7	ヒト免疫不全ウイルス	ヒト免疫不全ウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
21	10／21	ヒトT細胞白血病ウイルス	ヒトT細胞白血病ウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
22	10／28 4限	動物介在ウイルス	節足動物などの動物を介するウイルスとその病原性	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
23	10／28 5限	寄生虫感染症	原虫を含む寄生虫とその病原性	A-4-1-2, 3／ 各Ⅴ-2-エ-k	〃
24	11／11	病原微生物と感染症法	1～5類感染症の原因微生物とその病原性	A-4-1-2, 3／ 総Ⅲ-1-キ-b	〃
25	11／18	微生物に対する化学療法	化学療法薬の種類と作用メカニズム	A-4-1-6, 9／ 必-2-キ-c	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
26	11／25 4限	自然免疫	自然免疫の役割とその特徴	A-4-2-1／ 総Ⅱ-3-エ-a, b	②
27	11／25 5限	獲得免疫	獲得免疫の役割とその特徴	A-4-2-2, 3／ 総Ⅱ-3-オ-a, b	〃
28	12／2	抗原	抗原の種類とその特徴	A-4-2-3／ 総Ⅱ-3-ウ	〃
29	12／9 4限	抗体Ⅰ	IgG と IgA について	A-4-2-2, 3, 4／ 総Ⅱ-3-オ-a	〃
30	12／9 5限	抗体Ⅱ	IgE と IgM 及び IgD について	A-4-2-2, 3／ 総Ⅱ-3-オ-a	〃

歯科薬理学Ⅰ（後期・1単位）

D③④B-a1-2602(D2602)

科目責任者：鈴木 礼子（薬理・准教授）

科目担当者：①鈴木 礼子（薬理）、②柴田 達也（薬理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科薬理学の履修意義は、歯科臨床において適切な処方ができ、また、患者が他科で処方された薬についても十分に理解できるようになることである。本科目では、薬物の作用機序に主体をおく基礎薬理学について、講義主体で学修する。

2. 一般目標

歯科医療現場において、個々の患者の背景を理解し思いやりを持った言動ができるようになるため、更に、安全かつ適確に薬物を使用できるようになるため、薬理学の基礎的な知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 薬物療法の種類や薬理作用の基本形式と分類及び作用機序を説明できる。
- 2) 薬理作用を規定する要因（用量と反応、感受性）を説明できる。
- 3) 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。
- 4) 薬物の投与方法の種類と特徴を説明できる。
- 5) 薬物の併用による影響（協力作用、拮抗作用）を説明できる。
- 6) 薬物の連用による影響（耐性、蓄積、及び、薬物依存）を説明できる。
- 7) ライフステージに応じた、医薬品を適用する際の注意点を説明できる。
- 8) 日本薬局方を説明できる。
- 9) 医薬品の分類、毒薬・劇薬、及び、麻薬等の表示と保管を説明できる。
- 10) 医薬品の開発プロセスと臨床試験における医薬品の評価を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体で、スライドと配布プリントを使用して履修する。

5. 準備学修

事前に各回の授業内容を確認し、教科書の該当部分を読むこと。その際、授業内容に関連する基礎知識（既に他科目で学修した事項）で不確実な事項があれば、確認しておくこと（1時間）。授業後は、配布プリントの復習課題に取り組み、毎回の授業内容を確実にすること（1時間）。

6. 評価方法

多肢選択問題（MCQ）形式の定期試験（100％）で評価し、100点満点中65点以上で合格とする。追・再試験は100点満点で採点し、65点以上を合格とする。再試験は上限65点、追試験は上限80点で採点する。試験のフィードバックは、正答の掲示等により適宜行う。

7. 教本

鈴木邦明 監修 「現代歯科薬理学」第7版 医歯薬出版 2024

8. 参考書

鈴木邦明ほか 監修 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学」 医歯薬出版 2023

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／6	薬理学総論 1：薬物の作用1	薬理作用の基本形式・分類、薬物療法の種類	A-6-2-1／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-ア	①
2	9／13	薬理学総論 2：薬物の作用2	用量－反応関係	A-6-2-3,4／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-イ	ク
3	9／20	薬理学総論 3：薬物の作用3	受容体を介する／介さない薬物の作用	A-6-2-2／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-ア	ク
4	9／27	薬理学総論 4：薬物の作用4	受容体を介する／介さない薬物の作用	A-6-2-2／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-ア	ク
5	10／4	薬理学総論 5：薬物の作用5	受容体を介する／介さない薬物の作用	A-6-2-2／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-ア	ク
6	10／11	薬理学総論 6：薬物動態1	薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）	A-6-3-2／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-ア	ク
7	10／18	薬理学総論 7：薬物動態2	薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）	A-6-3-2／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-ア	ク
8	10／25	薬理学総論 8：薬物の投与方法1	薬物の投与方法の種類と特徴	A-6-3-1／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-イ	ク
9	11／1	薬理学総論 9：薬物の投与方法2	薬物の投与方法の種類と特徴	A-6-3-1／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-イ	ク
10	11／8	薬理学総論 10：薬物の作用に影響を与える因子	薬物の効果に影響する因子、薬物の併用と連用	A-6-2-5、 A-6-4-3／ 総Ⅶ-8-イ	ク
11	11／15	薬理学総論 11：薬理学総論のまとめ1	問題演習と解説	A-6-2,3、 A-6-4-3／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-ア、イ	① ②
12	11／22	薬理学総論 12：薬物と医薬品	日本薬局方、医薬品の分類、毒薬・劇薬及び麻薬等の表示と保管	A-6-1-1、 C-4-2-4／ 必2-イ	①
13	11／29	薬理学総論 13：医薬品を適用する際の注意1	服薬指導、ライフステージと薬物	A-6-3-3／ 総Ⅶ-8-イ	ク
14	12／6	薬理学総論 14：医薬品を適用する際の注意2、医薬品の開発・薬害	ライフステージと薬物、医薬品の開発・薬害	A-6-1-2、 A-6-3-3／ 必2-ケ、 総Ⅶ-8-イ	ク
15	12／13	薬理学総論 15：薬理学総論のまとめ2	問題演習と解説	A-6-1～3／ 必11-コ、 総Ⅶ-8-ア、イ	① ②

生体材料・歯科材料学Ⅰ

(後期・2単位)

D③④B-a2-2603(D2603)

科目責任者：石田 喜紀 (材料・准教授)

科目担当者：①石田 喜紀 (材料)，②齋藤 龍一 (材料)，
③大木 達也 (材料)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料，無機材料，有機材料，およびこれらを複合した材料があり，印象用，模型用，義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は，これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学，化学，および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で 사용되는材料であることを踏まえて，材料毎に所要性質，構成成分，その役割，物理化学的および機械的性質などを理解するとともに，それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師となるうえで，治療に必要な機材，材料の知識を当該科目にて学修する。

3. 到達目標

- 1) 歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
- 2) 成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用方法について説明できる。
- 3) さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 履修の進め方

要点はプロジェクターを活用し，視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また，学生は板書の内容，教科書およびレジュメにて理解を深める。各項目終了後に練習問題を配布し，各学生が自学自習後に知識の確認をさせる。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について，教科書の該当部分を読むこと (15分)。

授業内容について教科書にある図表を確認する (15分)。

6. 評価方法

定期試験 (上限100点)，追・再試験 (上限100点)，再試験 (上限65点) で評価する。65点以上を合格とする。必要に応じて特別試験を行うことがある。試験問題は多肢選択式とする。

7. 教本

中嶋 裕 他 「スタンダード歯科理工学第8版」 学建書院 2023年

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／6	歯科材料学総論(1)	歯科材料，生体材料の物理的・化学的性質について	B-1-1, 2, 3／ 総Ⅷ-1-ア，イ	①
2	9／6	歯科材料学総論(2)	歯科材料，生体材料の物理的・化学的性質について	B-1-1, 2, 3／ 総Ⅷ-1-ア，イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	9／13	歯科材料学総論(3)	歯科材料，生体材料の物理的・化学的性質について	B-1-1, 2, 3／ 総Ⅷ-1-ア，イ	①
4	9／13	歯科材料学総論(4)	歯科材料，生体材料の物理的・化学的性質について	B-1-1, 2, 3／ 総Ⅷ-1-ア，イ	〃
5	9／20	歯科材料学総論(5)	歯科材料，生体材料の物理的・化学的性質について	B-1-1, 2, 3／ 総Ⅷ-1-ア，イ	〃
6	9／20	歯質の切削 - 1	歯質切削の理論と使用する機械・器材	B-3-2／ 総Ⅷ-2-ア，イ	〃
7	9／27	歯質の切削 - 2	歯質切削の理論と使用する機械・器材	B-3-2／ 総Ⅷ-2-ア，イ	〃
8	9／27	成形修復材 - 1	成形修復材の分類と所要性質	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア	②
9	10／4	成形修復材 - 2	コンポジットレジン成分特性および操作法(1)	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア	〃
10	10／4	成形修復材 - 3	コンポジットレジン成分特性および操作法(2)	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア	〃
11	10／11	成形修復材 - 4	歯質接着理論	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア	〃
12	10／11	成形修復材 - 5	酸処理剤	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア	〃
13	10／18	成形修復材 - 6	接着性モノマー	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア	〃
14	10／18	成形修復材 - 7	歯質に対する接着操作	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア	〃
15	10／25	成形修復材 - 8	グラスアイオノマーセメント	B-2-1／ 総Ⅷ-5-ア	〃
16	10／25	予防填塞材料	予防材料の成分と特性	B-2-1／ 総Ⅷ-5-イ	〃
17	11／1	歯科用印象材 - 1	印象採得概説 印象材の分類および所要性質	B-3-1／ 総Ⅷ-3	③
18	11／1	歯科用印象材 - 2	弾性印象材の種類，成分および性質(1)	B-3-1／ 総Ⅷ-3	〃
19	11／8	歯科用印象材 - 3	弾性印象材の種類，成分および性質(2)	B-3-1／ 総Ⅷ-3	〃
20	11／8	歯科用印象材 - 4	弾性印象材の種類，成分および性質(3)	B-3-1／ 総Ⅷ-3	〃
21	11／15	歯科用印象材 - 5	弾性印象材の種類，成分および性質(4)	B-3-1／ 総Ⅷ-3	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
22	11／15	歯科用印象材 - 6	非弾性印象材の種類, 成分および性質	B-3-1／ 総Ⅷ-3	③
23	11／22	歯科用模型材	模型材料の成分, 特性および使用法	B-3-1／ 総Ⅷ-4-ア	ク
24	11／22	歯科用合金 - 1	歯科用合金の種類と特性	B-2-1／ 総Ⅷ-6-ウ	①
25	11／29	歯科用合金 - 2	貴金属合金 - 1	B-2-1／ 総Ⅷ-6-ウ	ク
26	11／29	歯科用合金 - 3	貴金属合金 - 2	B-2-1／ 総Ⅷ-6-ウ	ク
27	12／6	歯科用合金 - 4	非貴金属合金	B-2-1／ 総Ⅷ-6-ウ	ク
28	12／6	歯科用合金 - 5	金属の熱処理加工硬化	B-2-1／ 総Ⅷ-6-ウ	ク
29	12／13	歯科用合金 - 6	金属の接合	B-2-1／ 総Ⅷ-7-ウ-b	ク
30	12／13	矯正用材料	矯正用材料の成分と特性	B-2-4／ 総Ⅷ-10	ク

公衆衛生学（後期・1単位）

D③B-a1-2515(D2515)

科目責任者：小林美智代（衛生・講師）

科目担当者：①小林美智代（衛生）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

公衆衛生学は個人ではなく「集団」を主な対象とし、社会全体の健康増進と疾病予防に対する解決策を求めていく学問である。歯科医師は、公衆衛生の向上・増進に寄与することが求められる。本科目では、その基礎となる公衆衛生学の基本としくみ、疫学的手法による疾病への関わり、生活環境対策および人口問題などについて講義を行う。

2. 一般目標

学修者が歯科医師として必要な公衆衛生学的な考え方を学び、社会や環境が求める必要性に対して、的確に対応し解決できる能力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 健康、障害、疾病と死の概念を理解している。
- 2) 疫学と根拠に基づいた医療（EBM）を実践するための概念と応用法を理解している。
- 3) 統計学の有用性と限界を踏まえながら、保健医療統計とその応用を理解している。
- 3) 公衆衛生の視点から見た感染症と予防対策を理解している。
- 4) 疾病予防や健康を保持増進する環境条件を見出すことの重要性を理解している。
- 5) 食品衛生と栄養摂取基準を理解している。
- 6) 主な人口統計（人口動態と人口動態）、疾病の分類・統計（ICD等）、生命曲線を理解している。

4. 履修の進め方

予習：教科書（該当ページ）を読み、講義内容の概略を把握しておくこと。

講義：講義内容に関するプリントを配布するので、必要に応じて該当プリントに記録を取りながら履修する。

復習：学習内容を整理するとともに、講義中に行った練習問題の見直しを行う。もし疑問点があった際には教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

各回の講義範囲について教科書該当部分を読み、内容の概略を把握する（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価し、65点以上を合格とする。追試験100点満点で採点し、その点数を評価する。再試験は100点満点で採点し、65点以上を「65点」として評価する。

定期試験の形式は、多肢選択式（56問、84点）および記述式（2問、16点）で行う。

7. 教本

安井利一 他編 スタンダード衛生・公衆衛生 第18版 学建書院 2023

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	公衆衛生概論	公衆衛生学概要、公衆衛生学の歴史	C-4-1, 3, C-5-3, 5/ 必2-ア, 3-ア, 総 I-1-ア, オ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	9／9	公衆衛生と健康の概念	健康と疾病の概念、疾病の自然史、健康保持増進対策	C-4-1, 3, C-5-1, 5／必2-ア, 3-ア, 総 I -1-ア	①
3	9／30	国際医療と日本	世界の保健・医療問題。日本の医療の特徴、国際社会への貢献協力	C-7-3, 4／総論 I -5-ア	ク
4	9／30	疫学Ⅰ	疫学の研究方法（記述疫学、分析疫学、実験疫学、臨床疫学）	C-6-1／必9-ア, ウ, ク, 総論 I -6-ア, イ	ク
5	10／7	疫学Ⅱ	疫学研究の実際（スクリーニング検査、統計手法）	C-6-1／必9-ア, ウ, ク, 総論 I -6-ア, イ	ク
6	10／21	疫学Ⅲ	根拠に基づいた医療（EBM）の実践、バイアスおよびエビデンスレベル	C-6-1／必9-ア, ウ, ク, 総論 I -6-ア, イ	ク
7	10／28	疾病予防と健康管理Ⅰ	感染性疾患と非感染性疾患の予防。感染症関連法規、院内感染の予防	A-4-1-3, 4, 8, 9, C-4-2, C-5-4, ／必2-キ, 総 I -7-ア	ク
8	10／28	疾病予防と健康管理Ⅱ	生活習慣病の予防、保健医療の統計調査	C-5-4, C-6-2／必3-ア, 総 I -6-ウ	ク
9	11／11	環境と健康Ⅰ	環境問題と環境関連法規、水、大気と環境	C-4-5／総 I -9-ア	ク
10	11／18	環境と健康Ⅱ	温熱環境、放射線、廃棄物	C-4-5／総 I -9-ア	ク
11	11／25	食生活と健康Ⅰ	日本人の食事摂取基準、食品保健	E-5-2, C-6-2／総 I -8-ア, イ	ク
12	11／25	食生活と健康Ⅱ	食中毒の予防	E-5-2, C-6-2／総 I -8-ア, イ	ク
13	12／2	人口問題Ⅰ	人口静態統計、人口指数、人口割合、生命表	C-6-2／総 I -6-ウ	ク
14	12／9	人口問題Ⅱ	人口動態統計（出生、死亡の指標）	C-6-2／総 I -6-ウ	ク
15	12／9	人口問題Ⅲ	社会環境と人口	C-6-2／総 I -6-ウ	ク